

資料

江別版「生涯活躍のまち」構想

(案)

平成 28 年 10 月

江 別 市

目 次

はじめに	1
I 「地方創生」と「生涯活躍のまち」	2
1 「地方創生」の背景と経緯	2
2 「生涯活躍のまち」	2
II 江別市における「生涯活躍のまち」検討の背景	4
1 検討の背景	4
2 江別版「生涯活躍のまち」構想の位置づけ	4
III 「生涯活躍のまち」にかかる江別市の現状	7
1 江別市の地域特性	7
2 人口動態	9
3 市民アンケート結果からみる市民の意識	19
4 札幌市及び東京圏在住者の意識	29
IV 江別版「生涯活躍のまち」の基本的な考え方	31
1 江別市の現状から考える「生涯活躍のまち」のあり方	31
2 江別版「生涯活躍のまち」の基本的な考え方	32
3 江別版「生涯活躍のまち」に期待される効果	33
4 江別版「生涯活躍のまち」のモデル地区	34
5 江別版「生涯活躍のまち」の具体的展開	39
6 江別版「生涯活躍のまち」の実現に向けて	42
7 想定スケジュール	54
8 構想の策定体制	55

はじめに

(未)

江別市長 三 好 昇

I 「地方創生」と「生涯活躍のまち」

1 「地方創生」の背景と経緯

日本の総人口は2008年（平成20年）をピークに減少に転じ、今後も減少が続けることが見込まれています。北海道の地方自治体においては、出生数の低下もさることながら、首都圏をはじめとする都市部への人口流出が人口減少に拍車をかけているのが現状です。

国では、人口減少克服と地方創生を合わせて行うことにより、将来にわたって活力ある日本社会の維持を目指して「まち・ひと・しごと創生法」（平成26年11月）を制定しました。さらに、平成26年12月には、国と地方が総力を挙げて取り組む上での指針である「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び、今後5か年の政府の施策の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されました。

江別市では、こうした国の動きを受けて、平成27年に「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」「江別市人口ビジョン」を取りまとめ、将来にわたって市民が暮らし続けることができる活力あるまちづくりを目指し、取り組みを進めているところです。

2 「生涯活躍のまち」

(1) 「生涯活躍のまち」の基本的な考え方

国が示す「生涯活躍のまち」構想は、「東京圏をはじめとする地域の中高年齢者が、希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、多世代の地域住民と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり」（内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「生涯活躍のまち」構想に関する手引き（第3版））を目指すものとされています。

都市部で生活する50代以降のアクティブシニアをターゲットとし、地方への移住・住み替えを促進することで、地方への新たなひとの流れをつくりだすとともに、アクティブシニアを中心とした住民が生涯現役で活躍できるコミュニティを構築・形成することで、まちの活性化を図ることが求められています。

また、医療や介護サービスの効果的・効率的な確保などの観点から、地域の中で、まちの中心部など比較的便利な場所への住み替えを推進することも重要な取り組みとされています。

(2) 「生涯活躍のまち」に求められるもの

国では、「生涯活躍のまち」の要件を、「入居者※の安心・安全を確保する」＝「共通必須項目」と、「地域の特性や強みを活かす」＝「選択項目」に区分して示しています。

図表 I-2-1 生涯活躍のまちの具体像

(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「生涯活躍のまち」構想に関する手引き(第3版)より)

	入居者の安心・安全を確保する 「共通必須項目」	地域の特性や強みを活かす 「選択項目」
入居者	①入居希望の意思確認 ②入居者の健康状態 ③入居者の年齢	①入居者の住み替え形態 「広域移住型」⇔「近隣転居型」 ②入居者の所得等 ③入居者の属性
立地・ 居住環境	①地域社会(多世代)交流・協働 ②自立した生活ができる居住空間 ③生活全般のコーディネート(運営推進機能)	①どこに立地するか 「まちなか型」⇔「田園地域型」 ②地域的広がりをするか 「タウン型」⇔「エリア型」 ③地域資源をどう活用するか ④「地域包括ケア」との連携
サービス 提供	①移住希望者への支援 ②「健康でアクティブな生活」を支援するプログラムの提供 ③「継続的なケア」の提供	①住み替えサービス ②就業・社会参加支援サービス等
事業運営	①入居者の事業への参画 ②事業運営やケア関係情報の公開	①多様な事業主体の参画 ②事業形態に応じた収益モデルの確立・初期費用と維持費用の抑制に努める ③コミュニティの人口構成維持

※入居者：国の「「生涯活躍のまち」構想に関する手引き(第3版)」において「入居者」とは、特定の「生涯活躍のまち」への移住や住み替えをした者や希望する者(主に中高年齢者)を指している。本構想においても、国の定義と同義とする。

Ⅱ 江別市における「生涯活躍のまち」検討の背景

1 検討の背景

全国的に少子高齢化が進展し、人口の減少が加速していますが、江別市も例外ではありません。持続可能なまちづくりのためには、仕事や住まい、医療・福祉、教育、交通など、さまざまな側面から市民にとって満足度の高いまちづくりを目指す必要があります。

「生涯活躍のまち」の考え方は、入居者が生涯にわたって地域の中で活躍できるまちづくりを目指すことにあります。このことは、江別市が考えるまちづくりの考え方と方向性が同じものであり、アクティブシニアのみならず、すべての江別市民が市外に転出することなく生涯にわたって暮らし続けられるまちづくりを行うために必要な仕組みであると考えます。

2 江別版「生涯活躍のまち」構想の位置づけ

(1) えべつ未来づくりビジョン（第6次江別市総合計画）（平成26年度～平成35年度）

えべつ未来づくりビジョン（第6次江別市総合計画）は、江別市のまちづくりの最も基本となる計画であり、江別市におけるすべての計画の最上位に位置します。同計画では、人口減少下における持続可能なまちづくりを目指し、市の特性や優位性を活かした戦略的な施策の展開を進めているところです。

江別版「生涯活躍のまち」構想は、同計画の基本目標及び施策展開の方向性を踏まえて策定します。

図表Ⅱ-2-1 「えべつ未来づくりビジョン」基本目標

政 策	基本目標
政策 01 自然・環境	きれいな空気、清らかな水、豊かな緑に恵まれた美しく住みよいえべつをめざします
政策 02 産業	地域特性を活かした産業が躍動するえべつをめざします
政策 03 福祉・保健・医療	だれもが健康的に安心して暮らせるえべつをめざします
政策 04 安全・安心	だれもが安全で安心して暮らせるえべつをめざします
政策 05 都市基盤	暮らしやすさを実感できるえべつに向けて都市基盤の形成をめざします
政策 06 子育て・教育	未来のえべつを支える元気で情操豊かな子どもたちの育成をめざします
政策 07 生涯学習・文化	心の豊かさを実感できる成熟した生涯学習のまち・えべつの実現をめざします
政策 08 協働	市民や各種団体など多様な主体が、協働でまちづくりに取り組むえべつをめざします
政策 09 計画推進	透明性が高く、効率的で公平な市政運営を行い、着実に計画を推進します

(2) 江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略

江別市が平成 27 年に策定した江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、江別市における人口減少克服のため、平成 27 年度を初年度として、今後 5 年間に取り組む目標や施策の基本的方向性を示しています。

「生涯活躍のまち」については、「基本目標④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしと健康を守るとともに、地域と地域を連携する」の中に、下記の内容で位置づけられています。

地域における医療・保健・介護・住まいの連携による、江別市独自の「地域包括ケアシステム」を構築するとともに、江別版 CCRC※を検討

※CCRC：Continuing Care Retirement Community の略。健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケア環境の下で、自立した社会生活を送ることができるコミュニティ（地域共同体）のことで、1970 年代のアメリカで生まれた考え方。日本では、平成 27 年から内閣府により「日本版 CCRC 有識者会議」が起ち上げられ、地方へのひとの流れをつくる戦略の一つとして検討が進められた。会議での検討の結果、「日本版 CCRC」は「生涯活躍のまち」として考え方が整理・公表された。

(3) 保健福祉関係計画

① 第 3 期江別市地域福祉計画（平成 27 年度～平成 31 年度）

江別市地域福祉計画は、高齢者・障がい者福祉・子育て支援など、各社会福祉分野に共通する「どのようにして地域で支援が必要な方を把握し、地域に係るものが協働しながら適切なサービスや支援を行っていくか」という共通の課題解決に向けた基本的な目標や考え方を示すものです。

「生涯活躍のまち」では、入居者や市民が地域のさまざまな分野で活躍し、健康でアクティブな生活を送ることができるまちづくりを目指しており、江別版「生涯活躍のまち」構想は、江別市地域福祉計画の基本理念や基本目標を踏まえて策定します。

図表 II-2-2 「第 3 期江別市地域福祉計画」基本理念・基本目標

基本理念	お互いさま、みんなで支えあう地域づくり
基本目標	【基本目標 1】 支えあいの仕組みづくり 【基本目標 2】 地域を支える担い手やネットワークづくり 【基本目標 3】 地域福祉を推進する環境づくり

② 江別市高齢者総合計画（平成 27 年度～平成 29 年度）

（第 7 期江別市高齢者保健福祉計画／第 6 期江別市介護保険事業計画）

江別市高齢者総合計画は、団塊の世代がすべて 75 歳以上となる平成 37 年（2025 年）を見据えて、江別市の特性を踏まえた地域包括ケアシステムの構築を着実に進めることなどを目的として策定しています。

「生涯活躍のまち」の考え方は、「住まい」「医療」「介護」「生活支援」「介護予防」の一体的な提供により高齢者が生涯にわたって自立した生活を送る地域づくりを目指す地域

包括ケアシステムの考え方と共通しています。

江別版「生涯活躍のまち」構想は、江別市における地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みと連携・連動したものとなるよう策定します。

また、「生涯活躍のまち」において新たに介護保険事業サービスを実施する場合には、江別市介護保険事業計画との整合に留意して展開します。

③障がい者支援・えべつ21プラン

(第4期障がい者福祉計画(平成27年度～平成32年度))

(第4期障がい福祉計画(平成27年度～平成29年度))

障がい者支援・えべつ21プランは、江別市における障がい施策の基本的方向を定めるとともに、必要なサービスが全ての障がいのある方に行き渡るようサービスの見込量などを数値目標として定め、サービス提供体制への取り組みを着実に推進することを目指して策定したものです。

「生涯活躍のまち」では、アクティブシニアだけでなく、障がい者などの多様な市民がともに支え合いながら生活できる仕組みづくりが必要と考えます。江別版「生涯活躍のまち」構想は、障がい者支援・えべつ21プランとの整合・連携に留意して策定します。

④えべつ市民健康づくりプラン21(平成26年度～平成35年度)

えべつ市民健康づくりプラン21は、「だれもが健康的に安心して暮らせるえべつ」を基本理念とし、疾病予防や健康増進活動の推進に向けた取り組みを整理しています。

「生涯活躍のまち」では、アクティブシニアが生涯にわたって健康で、積極的に社会活動に参加できる地域づくりをめざしており、江別版「生涯活躍のまち」構想は、えべつ市民健康づくりプラン21との整合性を図りながら策定します。

(4) 江別市都市計画マスタープラン 2014[改訂版](目標年次平成35年度)

江別市都市計画マスタープラン 2014[改定版]は、江別市の都市計画に関する基本的な方針を定めた計画であり、将来の市街地規模や地域地区、都市施設、地区計画など、今後の都市計画や都市計画事業の方針としての役割を担っています。

「生涯活躍のまち」では、特定の地域における施設整備(住まいや拠点施設)などを行うことから、江別版「生涯活躍のまち」構想は、江別市都市計画マスタープラン 2014[改定版]との整合性を図りながら策定します。

Ⅲ 「生涯活躍のまち」にかかる江別市の現状

1 江別市の地域特性

(1) 多様な産業の集積

江別市の産業は、卸売業・小売業を核とした3次産業が中心ですが、農業や食品製造業、機械製造業、大学を中心とした教育関係産業など、特色ある産業が集積しています。

製造業では、国内有数のれんが生産地として、全国の3分の1以上のれんがを生産しており、れんがをはじめとする「やきもの」は江別の名産品です。毎年7月に開催される「えべつやきもの市」は、道内有数のイベントとなっています。

また、農業では、幻の小麦とされていた「ハルユタカ」の初冬まき栽培技術の確立により安定した収量・品質を確保することに成功し、市内で製粉・製麺された「江別小麦めん」が市内外で広く販売されるなど、江別ブランドとして成長しています。

(2) 医療・介護サービスの充実

江別市内には、江別市立病院※をはじめとする6つの病院が立地しています。各種診療所※も多数存在し、また、必要に応じて隣接する札幌市の専門医等への受診が可能であり、市民が安心して暮らせる医療環境が整っています。

高齢者向け施設サービスや、介護保険事業による在宅サービス等も充実しており、高齢期においても必要なサービスを利用できる体制が整っています。

※病院、診療所： 医療法における病院と診療所との区分について、病院は20床以上の病床を有するものとし、診療所は病床を有さないもの又は19床以下の病床を有するものとしている。

(3) 自然豊かな住環境

江別市内には、道内最大河川の石狩川が流れ、夕張川、千歳川、豊平川などとの合流点を有しています。また、南西部に広がり市域の10%を占める野幌原始林は、大都市近郊の貴重な平地林として、散策や野鳥観察など市民のレクリエーションの場としても利用されています。

(4) 交通アクセス

江別市は、札幌駅から電車で20分程度（野幌駅）の距離に位置し、市外への通勤通学にも利便性を有しているほか、高速道路の2つのインターチェンジがあり、道内各地へのアクセスが良好です。

また、市内はJR駅を起点とするバスによる交通網が充実しており、市内の移動も比較的容易となっています。

(5) 大規模な宅地開発

江別市では、1964年（昭和39年）から大規模住宅団地である「大麻団地」の造成がスタートし、このことは、江別市における大幅な人口増加の契機となりました。

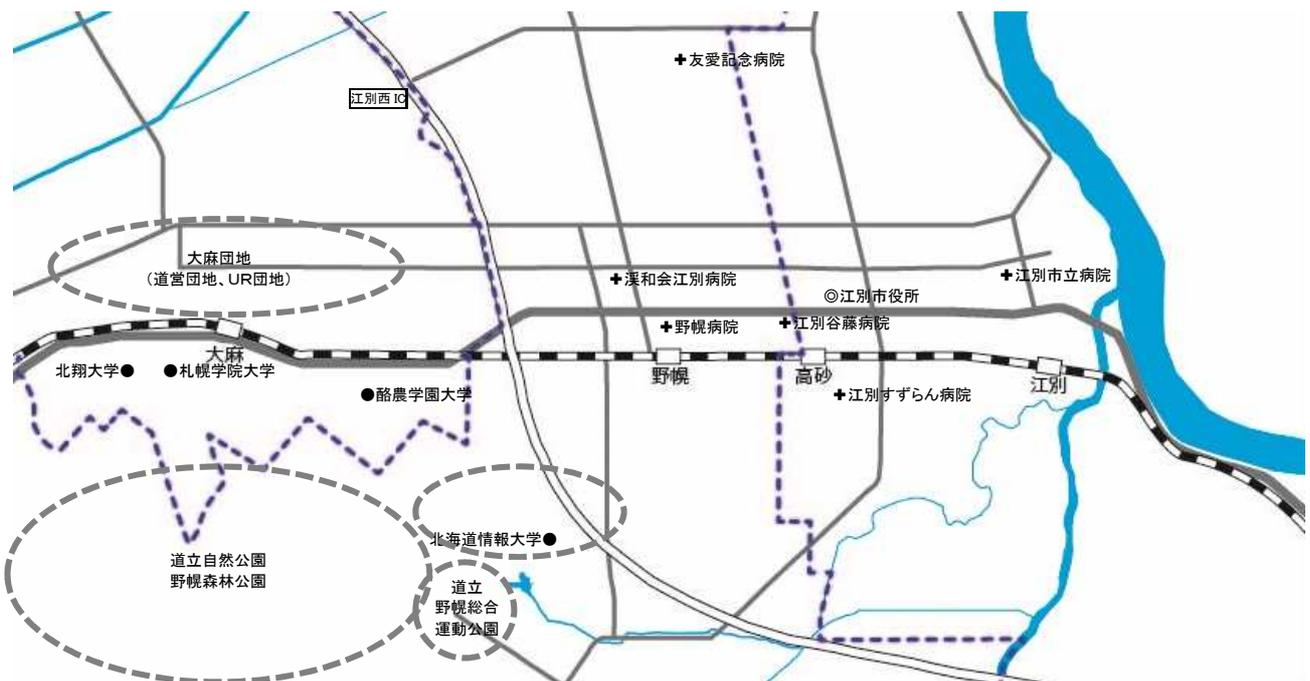
また、1980年代後半（昭和60年代）に入ると大規模な土地区画整理事業が始まり、大都市札幌へのアクセスの良さを背景として、江別市への人口流入・人口増加が進みました。

(6) 大学の集積

江別市内には現在、酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学、北海道情報大学の4大学が立地しています。人口12万人規模の自治体として、これだけの数の大学が集積しているまちは少ないと言えます。

4つの大学のうち、酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学の3校が大麻地区に、北海道情報大学が野幌地区に立地しています。

図表Ⅲ-1-1 江別市における主な地域資源



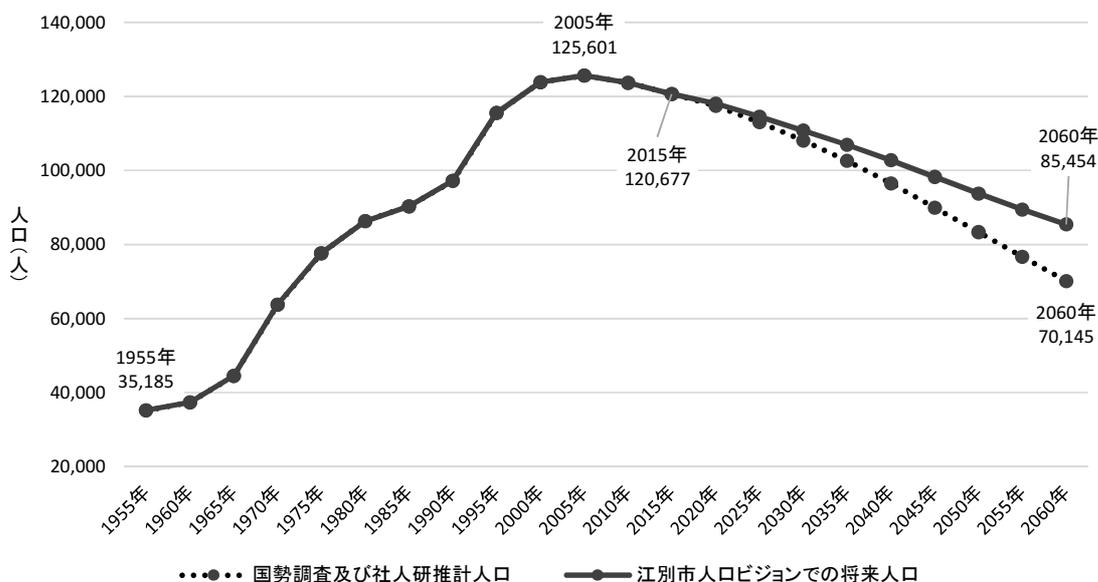
2 人口動態

(1) 総人口

江別市の人口は、1955年の35,185人から増加傾向で推移し、2005年には125,601人と約3.6倍になりました。しかし、2010年からは減少局面に突入し、2015年には120,677人へと減少し、今後も人口減少が続くものと予想されています。

国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）が2013年に公表した人口推計に基づき2060年までの人口を推計すると、2060年には70,145人とピーク時である2005年の約56%まで減少すると見込まれています。江別市では、そうした人口の減少を食い止め、江別市への新しいひとの流れを作ったり、若い世代の結婚・出産・子育てを支援したりなどして、2060年時点で社人研の人口推計を15,309人上回る見込みを持ちつつ、取り組みを進めているところです。

図表Ⅲ-2-1 江別市の総人口の推移と見込み

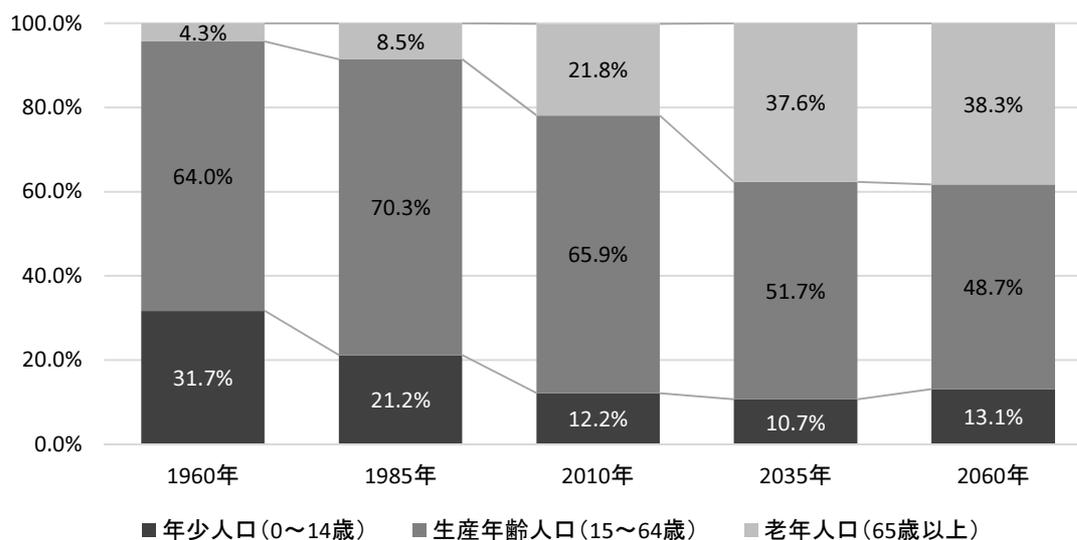


出典：1955年～2015年は国勢調査（2015年は速報値）、2020年以降は、社人研推計準拠及び江別市人口ビジョンより。

年齢3区分別人口割合の推移及び将来推計をみると、老年人口割合が1960年に4.3%であったものが、2010年には21.8%と割合が高くなっています。

今後は、若い世代の結婚・出産・子育ての支援などの年少人口を増やす取り組みを進めているため、2060年時点では年少人口割合13.1%、生産年齢人口割合48.7%、老年人口割合38.3%ほどで安定する見込みです。

図表Ⅲ-2-2 江別市の年齢3区分人口割合の推移と見込み



出典：1955年～2010年は国勢調査、2015年以降は江別市人口ビジョンより。

・図中の構成比は、小数点第2位以下を四捨五入したものであり、端数処理のため合計が100.0%にならない場合がある。

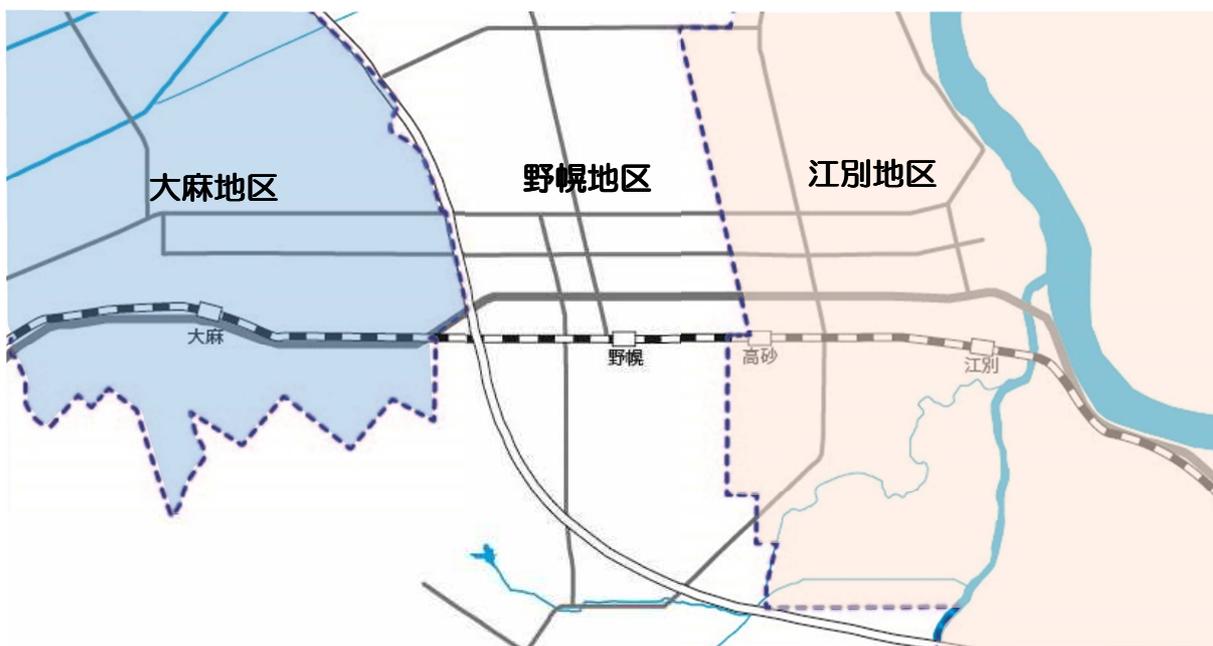
(2) 地区別の人口の状況

江別市では、江別市内を「江別地区」「野幌地区」「大麻地区」の3地区に分けています。これら3地区それぞれに該当する町名等については、図表Ⅲ-2-3のとおりです。

図表Ⅲ-2-3 3地区に該当する町名等

地区	町名
江別地区	1条1丁目～8条8丁目、あけぼの町、朝日町、いずみ野、一番町、江別太、王子、大川通、角山、上江別、上江別西町、上江別東町、上江別南町、工栄町、篠津、高砂町、対雁、東光町、豊幌、豊幌花園町、豊幌はみんぐ町、豊幌美咲町、中島、萩ヶ岡、牧場町、緑町東(西)〇丁目、美原、見晴台、向ヶ丘、萌えぎ野中央、萌えぎ野西、萌えぎ野東、元江別、元江別本町、元町、八幡、弥生町、ゆめみ野東町、ゆめみ野南町、若草町
野幌地区	あさひが丘、幸町、新栄台、中央町、錦町、西野幌、野幌寿町、野幌末広町、野幌住吉町、野幌町、野幌屯田町、野幌東町、野幌松並町、野幌美幸町、野幌代々木町、野幌若葉町、東野幌、東野幌町、東野幌本町、緑ヶ丘、元野幌
大麻地区	大麻、大麻泉町、大麻扇町、大麻北町、大麻栄町、大麻桜木町、大麻沢町、大麻新町、大麻園町、大麻高町、大麻中町、大麻西町、大麻晴美町、大麻東町、大麻ひかり町、大麻南樹町、大麻宮町、大麻元町、文京台、文京台東町、文京台緑町、文京台南町

図表Ⅲ-2-4 3地区の位置

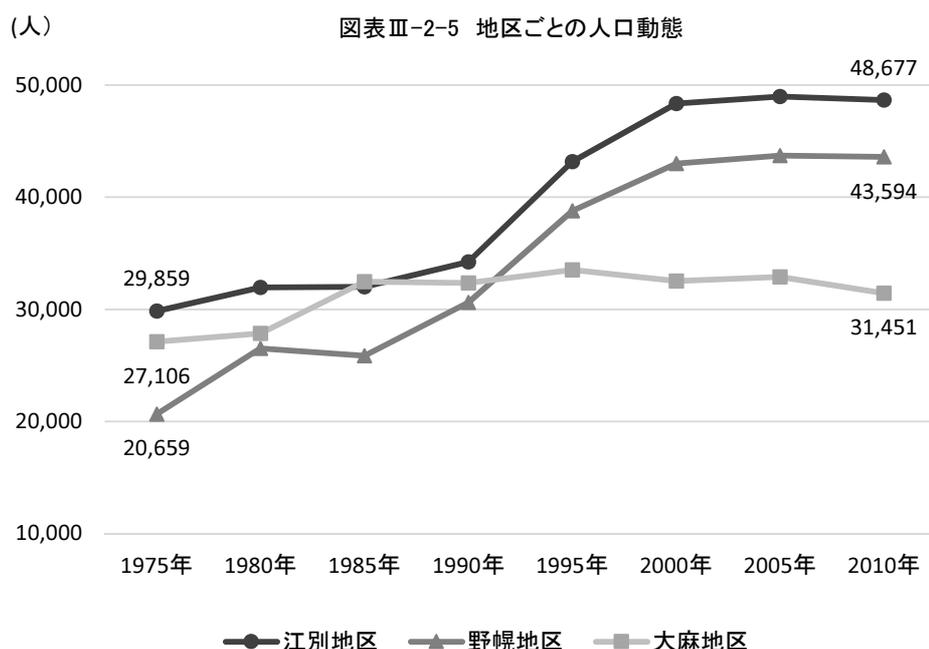


①人口の推移

江別市内の地区ごとの人口をみると、2010年では江別地区が48,677人、野幌地区が43,594人、大麻地区が31,451人となっています。

過去からの推移をみると、大麻地区では1975年から1985年にかけて微増傾向で推移し、その後は30,000人台前半で、ほぼ横ばいとなっています。

江別地区と野幌地区は増加傾向で推移し、特に1990年から1995年の間の人口増加数が大きくなっています。直近では、3地区とも減少傾向に転じており、最も人口減少率の高いのは大麻地区です。



出典：国勢調査

図表Ⅲ-2-6 地区ごとの人口増加率

	1975年→ 1980年	1980年→ 1985年	1985年→ 1990年	1990年→ 1995年	1995年→ 2000年	2000年→ 2005年	2005年→ 2010年
江別地区	7.1%	0.1%	7.0%	26.2%	12.0%	1.3%	-0.6%
野幌地区	28.4%	-2.5%	18.5%	26.7%	10.8%	1.7%	-0.3%
大麻地区	2.8%	16.5%	-0.4%	3.6%	-3.0%	1.2%	-4.4%
全体	11.2%	4.6%	7.6%	18.8%	7.3%	1.4%	-1.5%

出典：国勢調査

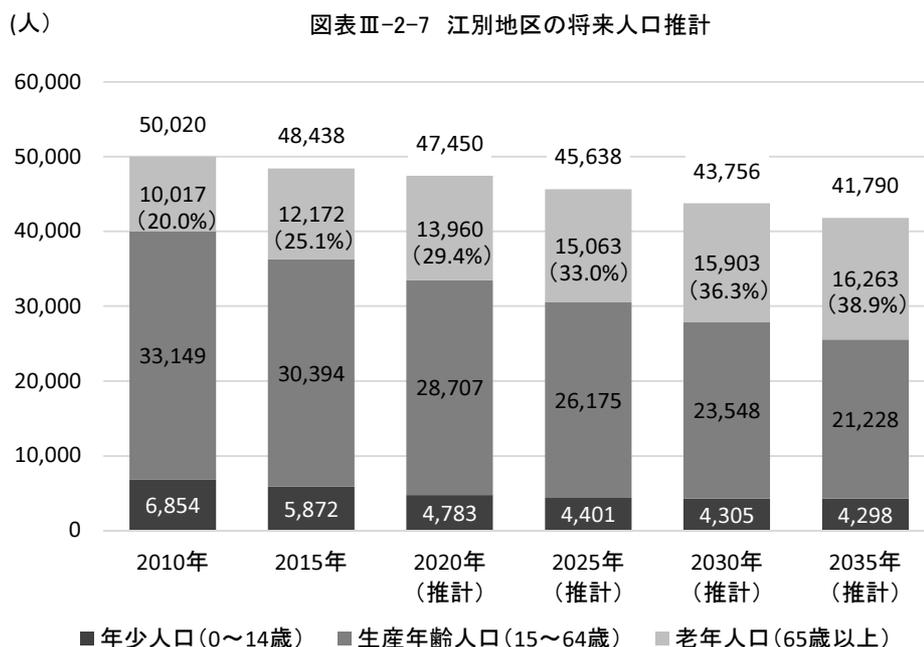
②地区ごとの将来人口推計

[江別地区]

2010年と2015年の住民基本台帳の人口からコーホート変化率法を用いて20年後までの3地区別将来人口推計を行いました¹。

江別地区は、2015年時点で48,438人の人口が20年後には41,790人まで減少すると見込まれます（対2015年比△13.7%）。

老年人口は2015年時点で12,172人であるものが、20年後には16,263人まで増大すると見込まれています（対2015年比33.6%）。また、高齢化率は2015年の25.1%から、2035年に38.9%まで拡大することが見込まれます。



出典：江別市住民基本台帳を基に推計（各年10月1日時点）

- ・直近の地区ごとの人口を住民基本台帳人口で把握するため、国勢調査人口（12 ページ図表Ⅲ-2-5）とは数値が異なる。
- ・推計人口は、小数点以下を四捨五入したものであり、端数処理のため、年齢3区分別人口の合計が総人口と一致しない場合がある。

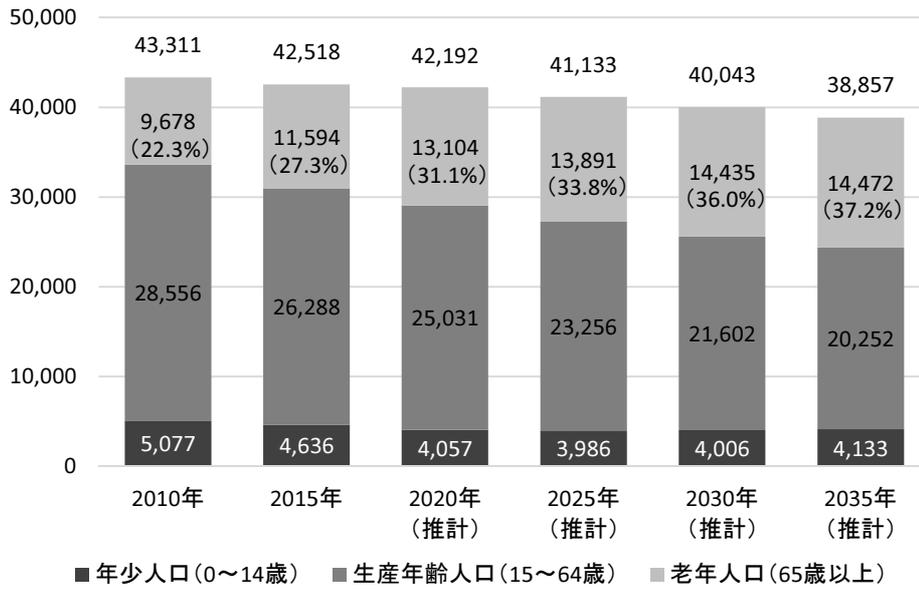
[野幌地区]

野幌地区は、2015年時点で42,518人の人口が20年後には38,857人まで減少すると見込まれています（対2015年比△8.6%）。

老年人口は2015年時点で11,594人であるものが、20年後には14,472人まで増大すると見込まれ（対2015年比24.8%）、高齢化率は2015年の27.3%から、2035年には37.2%まで拡大する見込みです。

¹ コーホート変化率法とは、ある一定期間内に生まれた人の集団（＝コーホート）について、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法である。本調査では、各地区の2010年と2015年の住民基本台帳のデータを用いて推計した上で、江別市人口ビジョンに示されている江別市全体の将来人口推計値と合致するよう各地区、年齢3区分別に一定係数を乗じて算出した。

(人) 図表Ⅲ-2-8 野幌地区の将来人口推計



出典：江別市住民基本台帳を基に推計（各年 10 月 1 日時点）

- ・直近の地区ごとの人口を住民基本台帳人口で把握するため、国勢調査人口（12 ページ図表Ⅲ-2-5）とは数値が異なる。
- ・推計人口は、小数点以下を四捨五入したものであり、端数処理のため、年齢 3 区分別人口の合計が総人口と一致しない場合がある。

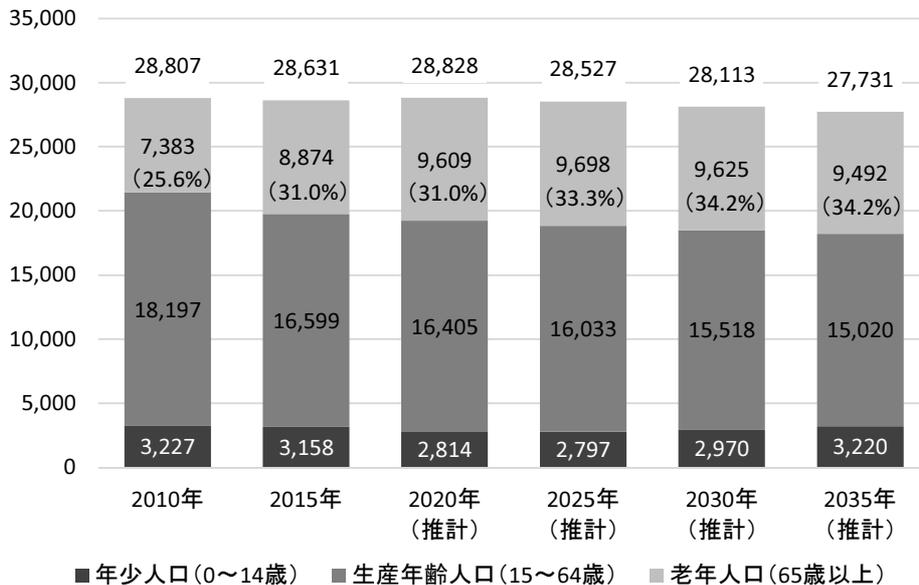
[大麻地区]

大麻地区は、2015 年時点で 28,631 人の人口が 20 年後には 27,731 人になると見込まれています（対 2015 年比△3.1%）。人口は減少しますが、3 地区の中では最も減少率が低くなっています。

老年人口は 2015 年時点の 8,874 人から、20 年後には 9,492 人まで増大すると見込まれ（対 2015 年比 7.0%）、高齢化率は 2015 年の 31.0%から、2035 年に 34.2%まで拡大する見込みです。

(人)

図表Ⅲ-2-9 大麻地区の将来人口推計



出典：江別市住民基本台帳を基に推計（各年 10 月 1 日時点）

- ・直近の地区ごとの人口を住民基本台帳人口で把握するため、国勢調査人口（12 ページ図表Ⅲ-2・5）とは数値が異なる。
- ・推計人口は、小数点以下を四捨五入したものであり、端数処理のため、年齢 3 区分別人口の合計が総人口と一致しない場合がある。

(3) 転入・転出の状況

① 転入の状況

他地域から江別市へ転入する人の動きについて、2014年は全体で4,488人の転入がありました。道内からの転入者が3,674人(81.9%)と多く、そのうち、1,635人が札幌市からの転入者です。

年齢別にみると、20歳代が1,259人、30歳代が926人と、若い世代の転入が多くなっています。JR等により隣接する札幌市へのアクセスがよく、また、札幌市と比べて住宅取得にかかる費用が安いことなどから、子育て世代の転入が多いものと考えられます。

50歳代以上に注目してみると、全体で787人の転入がありました。そのうち686人(87.1%)は道内からの転入であり、道外からの転入は101人(12.6%)です。道内からの転入者686人のうち222人(32.4%)は札幌市からであり、その他、岩見沢市や南幌町など近隣の市町村からの転入が多かったため空知管内からの転入も111人(16.2%)と多くなっています。隣接する空知管内の自治体と比べて、江別市は医療や介護サービスが充実しており、また、大都市札幌へのアクセスが容易であることなどを背景に、空知管内からの転入が多かったものと推察されます。

図表Ⅲ-2-10 人口動態（江別市への転入、2014年）

	全体	道内				道外	
		札幌市	石狩管内 (札幌除く)	空知管内	その他 道内		
総数	4,488	3,674	1,635	291	519	1,229	814
10歳未満	544	493	274	30	64	125	51
10歳代	481	346	63	32	43	208	135
20歳代	1,259	938	443	67	138	290	321
30歳代	926	800	449	64	106	181	126
40歳代	491	411	184	39	57	131	80
50歳代	358	313	85	33	45	150	45
60歳代	191	157	52	10	27	68	34
70歳代	103	89	40	7	18	24	14
80歳代以上	135	127	45	9	21	52	8
50歳代以上 (再掲)	787	686	222	59	111	294	101

出典：住民基本台帳移動報告（2014年）

②転出の状況

江別市から他地域へ転出する人の動きについて、2014年は全体で4,605人の転出がありました。道内への転出が3,599人(78.2%)と多く、そのうち、2,080人(57.8%)が札幌市への転出者です。

年齢別にみると、20歳代の転出が2,061人(44.8%)と多くなっており、そのうち867人(42.1%)が札幌市へ転出しています。この年代の札幌市への転出理由としては、就職によるものが多いものと考えられます。

50歳代以上に注目してみると、全体で762人の転出がありました。そのうち676人(85.4%)は道内への転出であり、道外への転出は86人(14.6%)です。

道内への転出者676人のうち403人(58.7%)は札幌市への転出です。買い物や医療・介護など、生活利便性がより高いところを求めて転出したものと推察されます。

図表Ⅲ-2-11 人口動態（江別市からの転出、2014年）

	全体	道内				道外	
		札幌市	石狩管内 (札幌除く)	空知管内	その他 道内		
総数	4,605	3,599	2,080	216	287	1,016	1,006
10歳未満	288	237	128	7	37	65	51
10歳代	329	234	120	21	26	67	95
20歳代	2,061	1,502	867	72	88	475	559
30歳代	763	623	375	36	61	151	140
40歳代	402	327	187	26	29	85	75
50歳代	360	325	153	26	25	121	35
60歳代	161	135	92	6	7	30	26
70歳代	104	91	69	8	5	9	13
80歳代以上	137	125	89	14	9	13	12
50歳代以上 (再掲)	762	676	403	54	46	173	86

出典：住民基本台帳移動報告（2014年）

③社会増減（転入-転出）の状況

江別市における2014年の社会増減（転入-転出）の状況をみると、全体で117人の社会減となっています。道内では75人の転入超過ですが、札幌市に対しては445人の転出超過が顕著になっています。

年齢別にみると、20歳代で転出超過が802人と顕著であり、特に札幌市、道外の転出超過が目立っています。30歳代・40歳代は転入超過となっています。

50歳代以上に注目してみると、全体では25人の転入超過であり、空知管内を中心として札幌市以外の道内からの転入超過であることが分かります。一方、札幌市に対しては50歳代以上のすべての年代で転出超過となっています。

図表Ⅲ-2-12 人口動態（江別市からの転入-転出、2014年）

	全体	道内				道外	
		札幌市	石狩管内 (札幌除く)	空知管内	その他 道内		
総数	▲ 117	75	▲ 445	75	232	213	▲ 192
10歳未満	256	256	146	23	27	60	0
10歳代	152	112	▲ 57	11	17	141	40
20歳代	▲ 802	▲ 564	▲ 424	▲ 5	50	▲ 185	▲ 238
30歳代	163	177	74	28	45	30	▲ 14
40歳代	89	84	▲ 3	13	28	46	5
50歳代	▲ 2	▲ 12	▲ 68	7	20	29	10
60歳代	30	22	▲ 40	4	20	38	8
70歳代	▲ 1	▲ 2	▲ 29	▲ 1	13	15	1
80歳代以上	▲ 2	2	▲ 44	▲ 5	12	39	▲ 4
50歳代以上 (再掲)	25	10	▲ 181	5	65	121	15

3 市民アンケート結果からみる市民の意識

(1) 市民アンケート調査の概要

江別市では、「生涯活躍のまち」の対象となる世代である50～70代の江別市民の住まいや移住に関する意識を把握し、江別版「生涯活躍のまち」構想の検討にかかる基礎資料とするため、市民アンケート調査を実施しました。

図表 Ⅲ-3-1 調査概要

対象者	住民基本台帳に登録されている50～79歳の江別市民の中から、性別、年齢、居住地域で偏りがないように配慮し、1,700人を無作為に抽出
調査方法	郵送により発送・回収
調査期間	平成28年6月7日～平成28年6月28日
回収状況	発送数1,700件に対し回収数822件（回収率48.4%）
回答者の属性	性別：男性350人（42.6%）、女性466人（56.7%） 年代：50～54歳97人（11.8%）、55～59歳126人（15.3%）、 60～64歳145人（17.6%）、65～69歳183人（22.3%）、 70～74歳143人（17.4%）、75～79歳120人（14.6%） 無回答8人（1.0%）

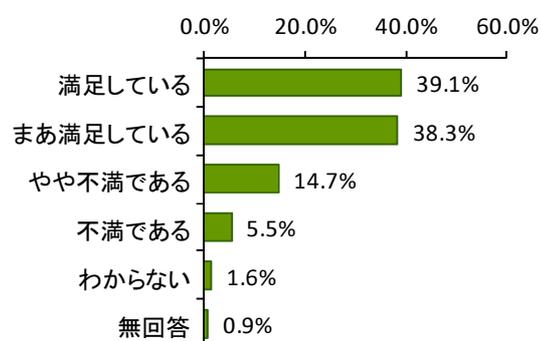
(2) 市民アンケート結果からみる市民の意識

①現在の住宅の満足度

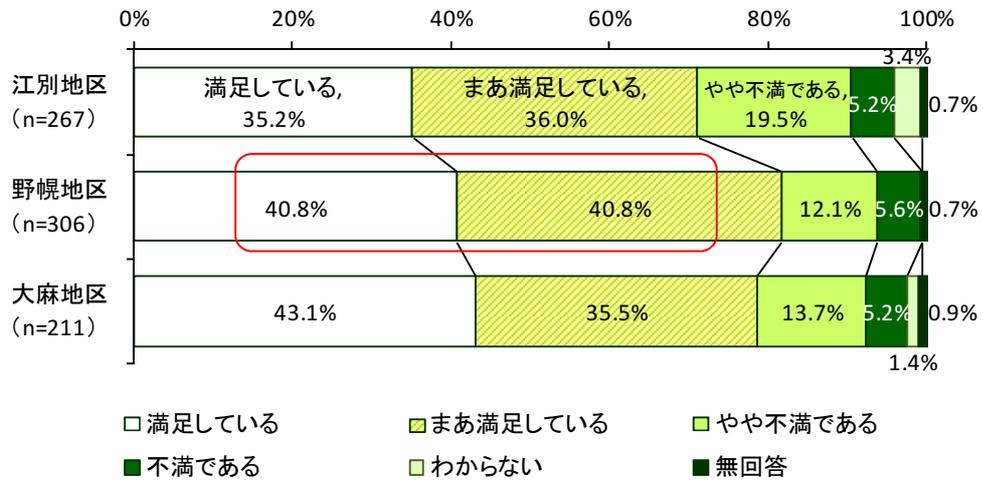
現在の住宅の満足度については、「満足している」の割合が39.1%、「まあ満足している」の割合が38.3%、「やや不満である」の割合が14.7%となっています。

居住地区別にみると、「江別地区」では、他の地区と比べて「満足している」の割合が低く35.2%、一方、「やや不満である」の割合は他の地区と比べて高く、19.5%となっています。

図表Ⅲ-3-2 現在の住宅の満足度（n=822）



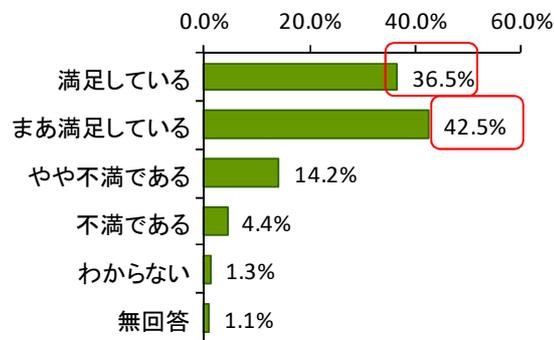
図表Ⅲ-3-3 現在の住宅の満足度（居住地区別）



②現在の居住地の満足度

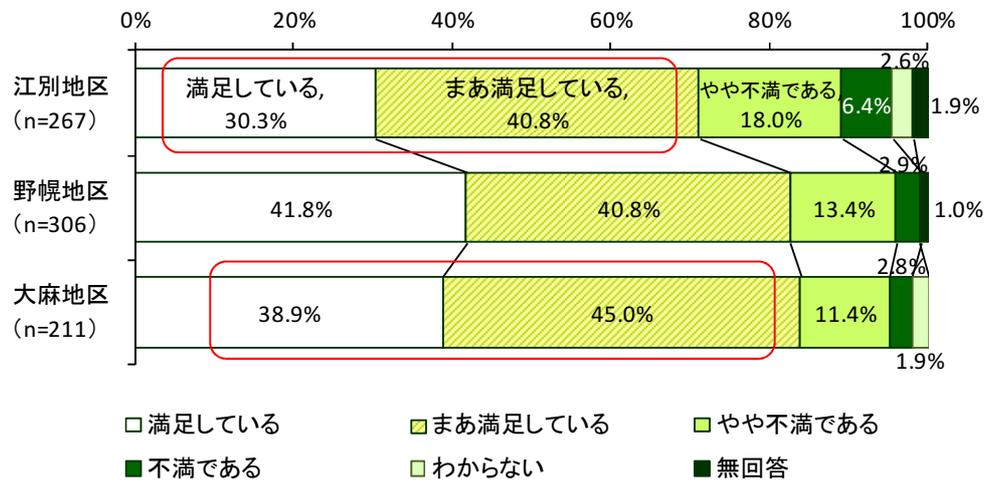
現在の居住地の満足度については、「まあ満足している」の割合が 42.5%と最も高く、次いで「満足している」が 36.5%、「やや不満である」が 14.2%となっています。

図表Ⅲ-3-4 現在の居住地の満足度（n=822）



居住地区別にみると、「江別地区」では、他の地区と比べて「満足している」の割合が低く、30.3%でした。「満足している」「まあ満足している」の合計が、「野幌地区」「大麻地区」では8割を超えているのに対して、「江別地区」では約7割となっています。

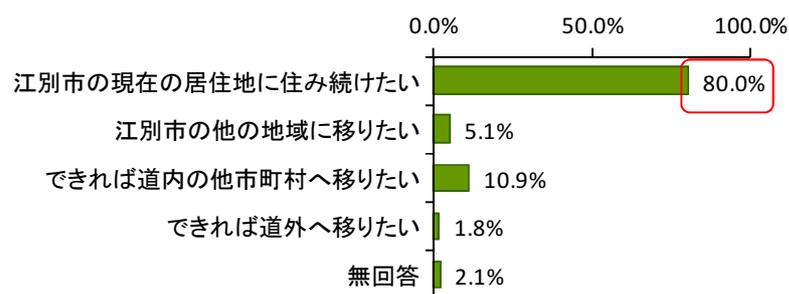
図表Ⅲ-3-5 現在の居住地の満足度（居住地区別）



③今後の移住意向

今後の移住の意向については、80.0%が「江別市の現在の居住地に住み続けたい」と回答しています。また、「できれば道内の他市町村へ移りたい」が10.9%、「江別市の他の地域に移りたい」が5.1%となっています。

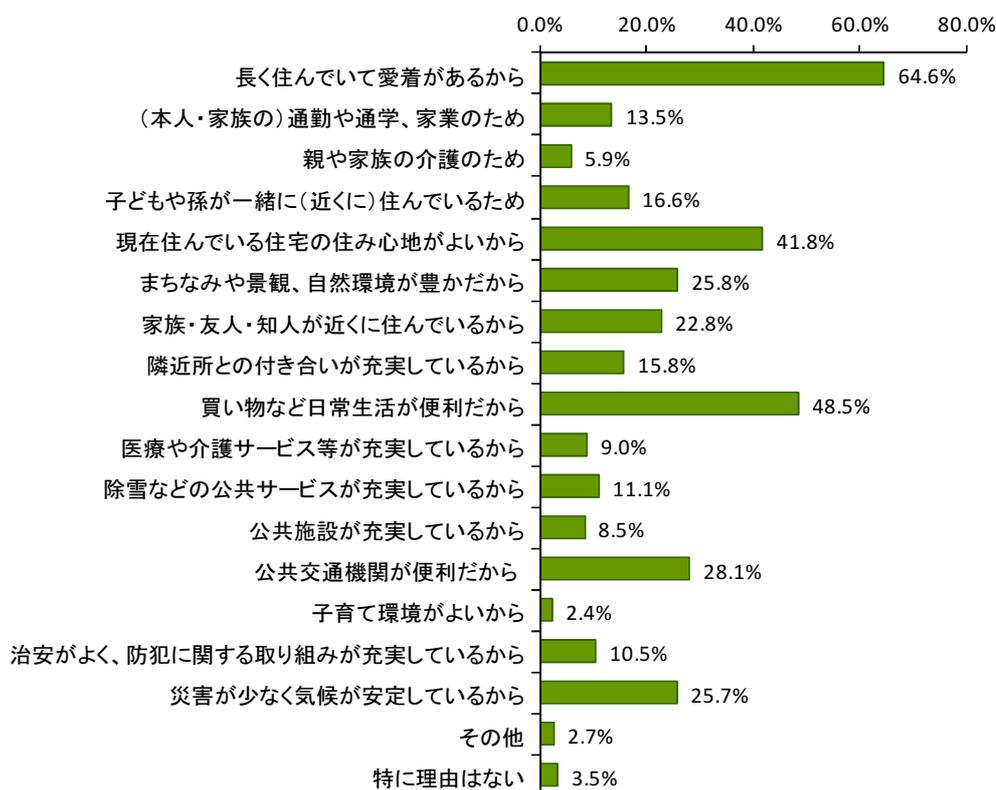
図表Ⅲ-3-6 今後の移住の意向（n=822）



④現在の居住地に住み続けたい理由

また、今後も「江別市の現在の居住地に住み続けたい」と回答した658人に、住み続けたい理由を聞いたところ、「長く住んでいて愛着があるから」の割合が64.6%と最も高く、次いで「買い物など日常生活が便利だから」が48.5%、「現在住んでいる住宅の住み心地がよいから」が41.8%となっています。

図表Ⅲ-3-7 現在の居住地に住み続けたい理由（複数回答、n=658）

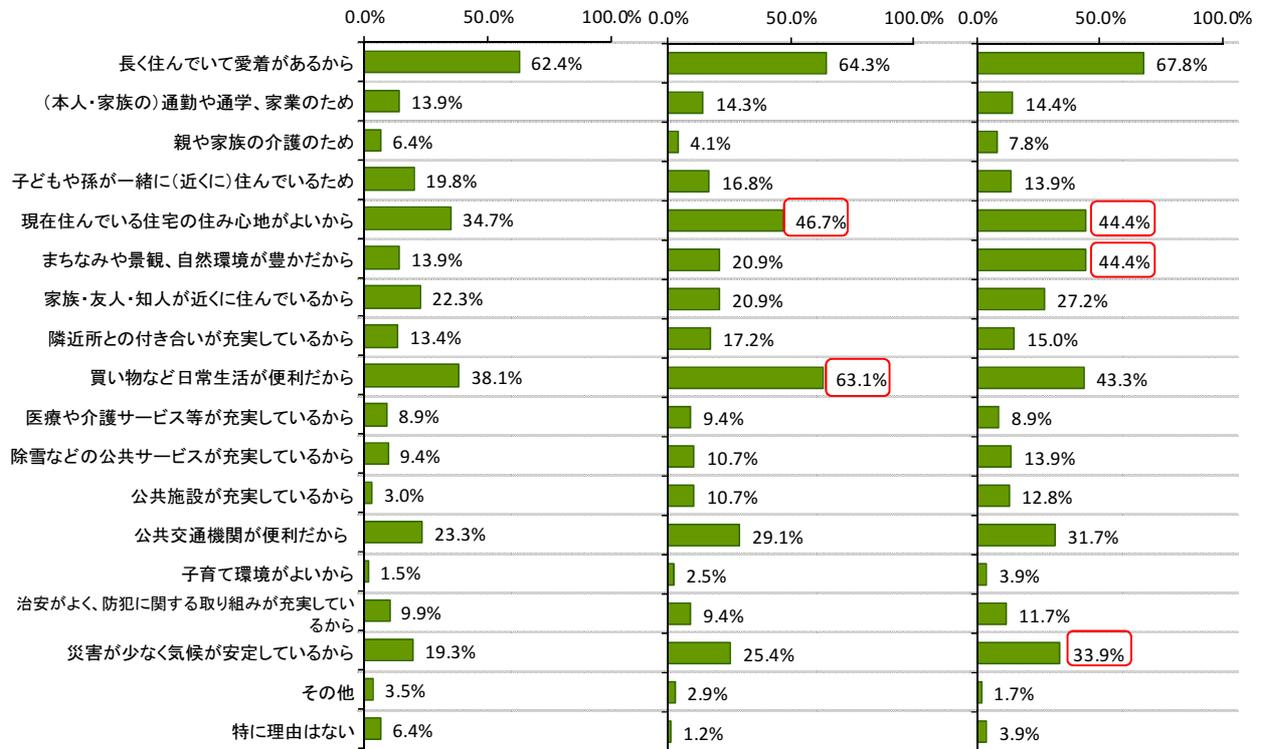


現在の居住地に住み続けたい理由について居住地区別にみると、「野幌地区」では、「買い物など日常生活が便利だから」の割合が63.1%となっており、他の地区と比べて高くなっています。「大麻地区」では、「まちなみや景観、自然環境が豊かだから」の割合が44.4%、「災害が少なく気候が安定しているから」が33.9%となっており、他の地区と比べて高くなっています。

また、「現在住んでいる住宅の住み心地がよいから」は「野幌地区」が46.7%、「大麻地区」が44.4%となっており、「江別地区」の34.7%よりも高い割合となっています。

図表Ⅲ-3-8 現在の居住地に住み続けたい理由（居住地区別、複数回答）

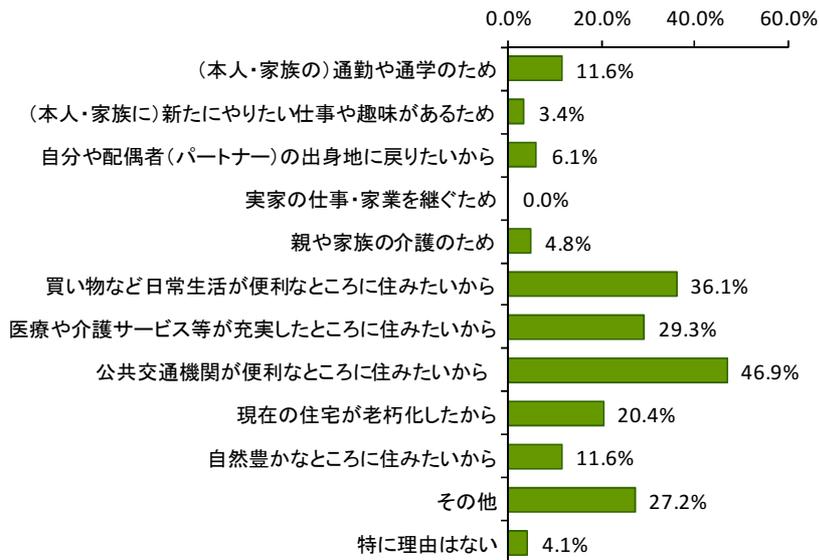
【江別地区（n=202）】 【野幌地区（n=244）】 【大麻地区（n=180）】



⑤移住をしたい理由

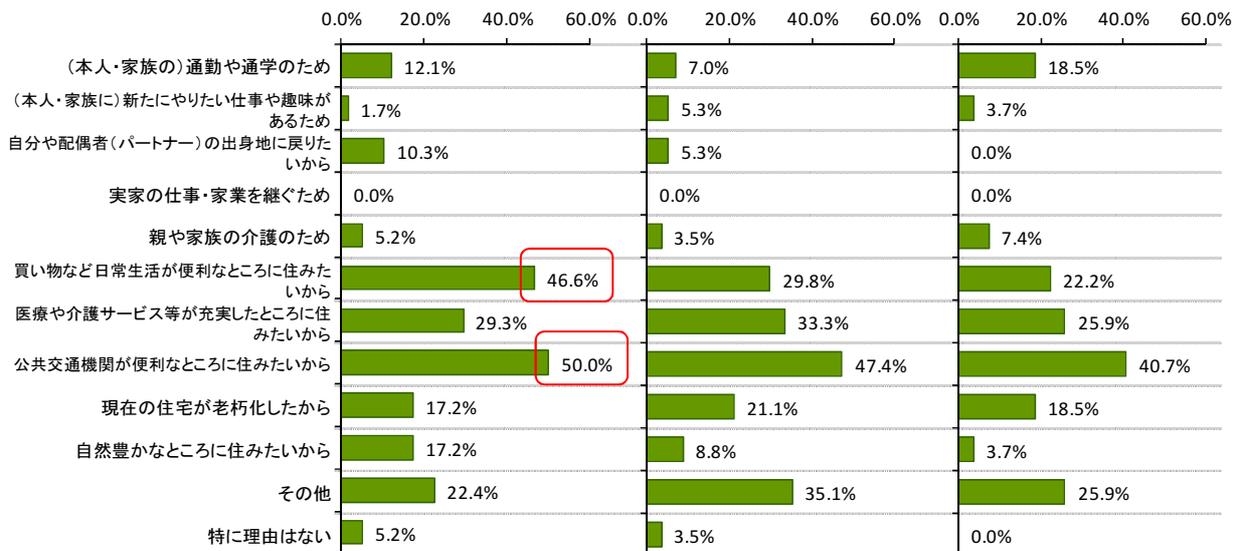
今後の移住の意向で「江別市の他の地域に移りたい」「できれば道内の他市町村に移りたい」「できれば道外へ移りたい」と回答した147人に、移住をしたい理由について聞いたところ、「公共交通機関が便利なところに住みたいから」の割合が46.9%と最も高く、次いで「買い物など日常生活が便利なところに住みたいから」が36.1%、「医療や介護サービス等が充実したところに住みたいから」が29.3%となっています。

図表Ⅲ-3-9 移住をしたい理由（複数回答、n=147）



図表Ⅲ-3-10 移住をしたい理由（複数回答、n=147）

【江別地区 (n=58)】 【野幌地区 (n=57)】 【大麻地区 (n=27)】



⑥社会活動や趣味活動

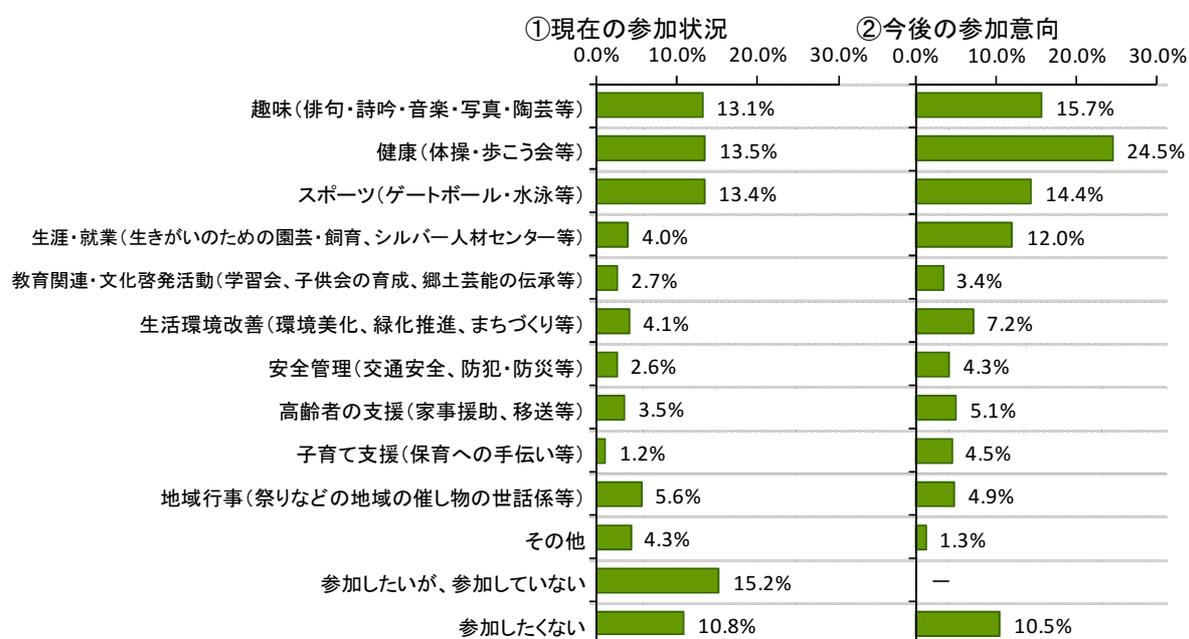
・現在の参加状況

個人または友人、グループや団体で自主的に行われているような活動への現在の参加状況について聞いたところ、「参加したいが、参加していない」の割合が15.2%と最も高くなっていますが、具体的に出たものの中では「健康」が13.5%、「スポーツ」が13.4%、「趣味」が13.1%となっています。

・今後の参加意向

個人または友人、グループや団体で自主的に行われているような活動への今後の参加意向について聞いたところ、「健康」の割合が24.5%と最も高く、次いで「趣味」が15.7%、「スポーツ」が14.4%、「生涯・就業」が12.0%となっています。

図表Ⅲ-3-11 社会活動や趣味活動 (n=822)



⑦学習活動

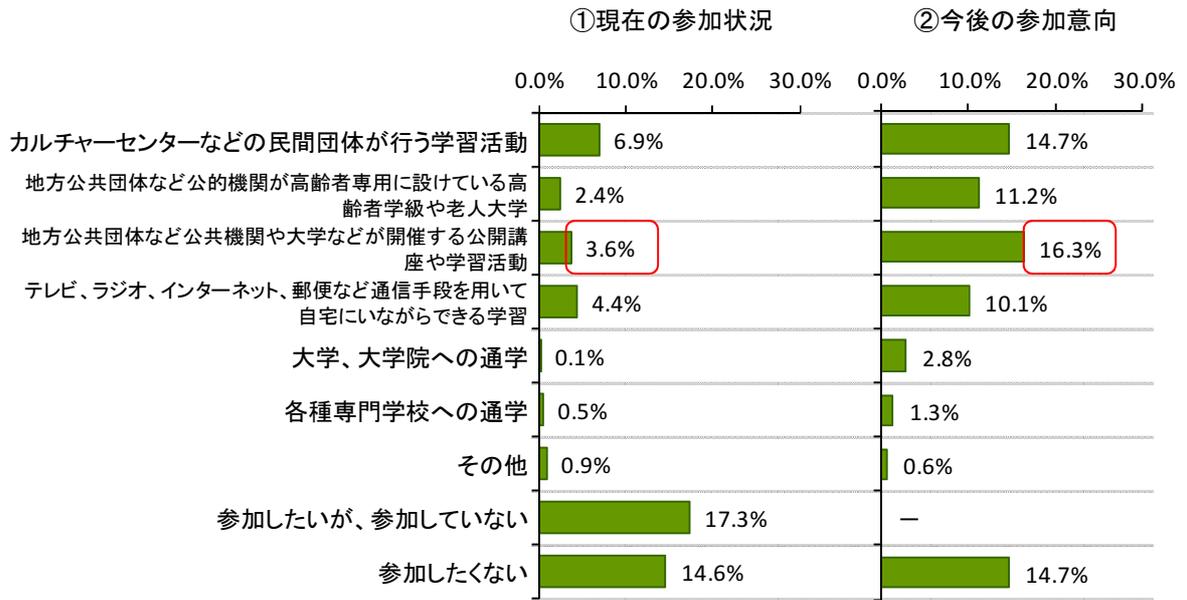
・現在の参加状況

学習活動への現在の参加状況について聞いたところ、「参加したいが、参加していない」の割合が17.3%と最も高く、次いで「参加したくない」が14.6%、「カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動」が6.9%となっています。

・今後の参加意向

学習活動への今後の参加意向について聞いたところ、「地方公共団体など公共機関や大学などが開催する公開講座や学習活動」の割合が16.3%と最も高く、次いで「カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動」「参加したくない」がともに14.7%、「地方公共団体など公的機関が高齢者専用に向けている高齢者学級や老人大学」が11.2%となっています。

図表Ⅲ-3-12 学習活動 (n=822)



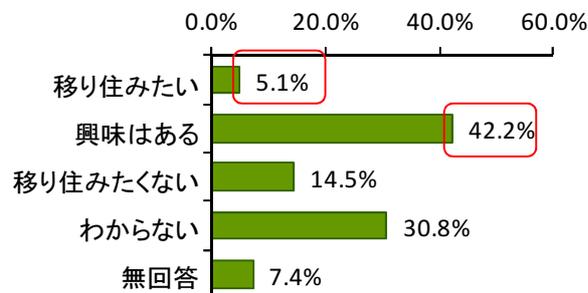
⑧江別版「生涯活躍のまち」への移住意向

江別市内で「生涯活躍のまち」構想を実現した場合に「生涯活躍のまち」に移り住みたいかを聞いたところ、「興味はある」の割合が42.2%と最も高く、次いで「わからない」が30.8%、「移り住みたくない」が14.5%、「移り住みたい」が5.1%でした。

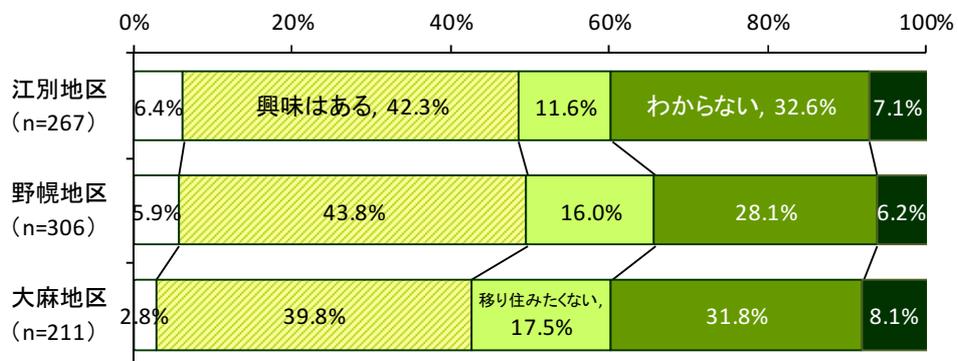
居住地区別にみると、「江別地区」「野幌地区」では「移り住みたい」と「興味はある」を合わせた割合がそれぞれ48.7%、49.7%となっており、約5割の人が興味を持っていますが、「大麻地区」では「移り住みたい」と「興味はある」を合わせた割合が42.6%にとどまっており、「移り住みたくない」の割合も他の地区と比べると高く、17.5%となっています。

なお、③で「江別市の他の地域に移りたい」と回答した42人のうち、江別版「生涯活躍のまち」に「移り住みたい」と回答したのは、3人（7.1%）でした。

図表Ⅲ-3-13 江別版「生涯活躍のまち」への移住意向 (n=822)



図表Ⅲ-3-14 江別版「生涯活躍のまち」への移住意向 (居住地区別)

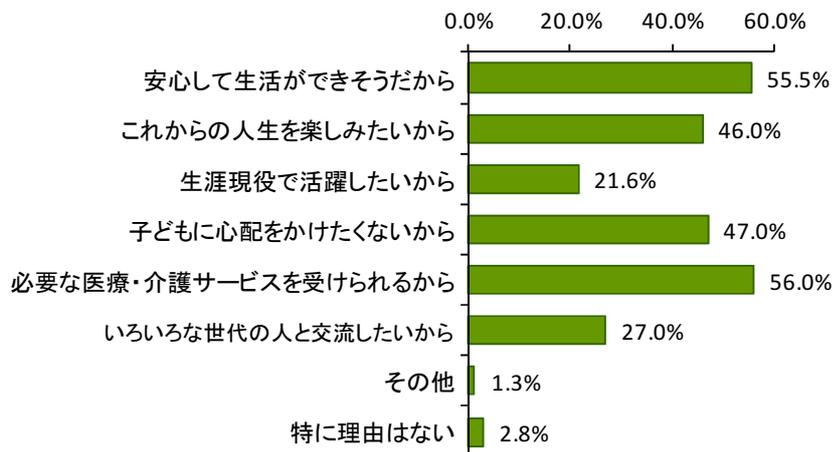


□ 移り住みたい ■ 興味はある ■ 移り住みたくない ■ わからない ■ 無回答

⑨江別版「生涯活躍のまち」への移住理由

江別版「生涯活躍のまち」への移住意向で、「移り住みたい」「興味はある」と回答した 389 人に、その理由を聞いたところ、「必要な医療・介護サービスを受けられるから」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「安心して生活ができそうだから」が 55.5%、「子どもに心配をかけたくないから」が 47.0%、「これからの人生を楽しみたいから」が 46.0%となっています。

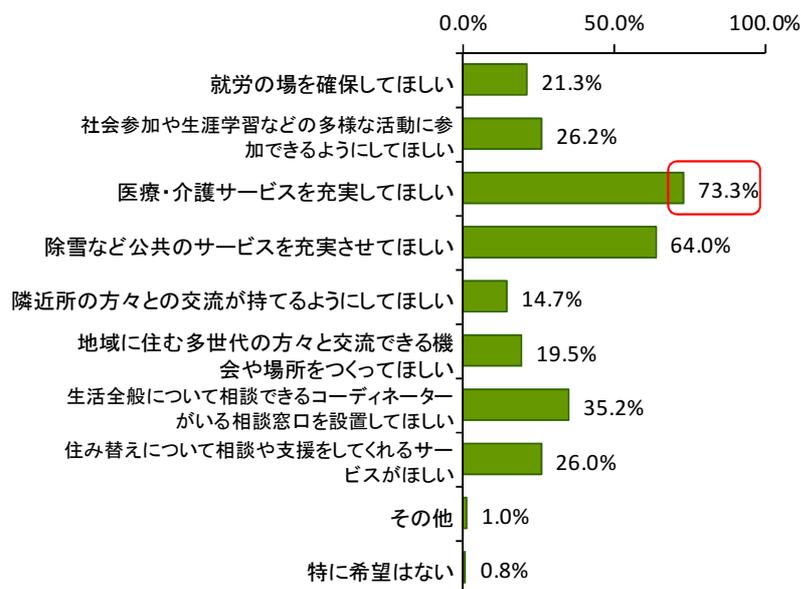
図表Ⅲ-3-15 江別版「生涯活躍のまち」への移住理由（複数回答、n=389）



⑩江別版「生涯活躍のまち」構想に求めるサービス

江別版「生涯活躍のまち」への移住意向で、「移り住みたい」「興味はある」と回答した 389 人に、どのようなサービスを求めるかを聞いたところ、「医療・介護サービスを充実してほしい」の割合が 73.3%と最も高く、次いで「除雪など公共のサービスを充実させてほしい」が 64.0%、「生活全般について相談できるコーディネーターがいる相談窓口を設置してほしい」が 35.2%となっています。

図表Ⅲ-3-16 江別版「生涯活躍のまち」構想に求めるサービス（複数回答、n=389）



4 札幌市及び東京圏在住者の意識

(1) 札幌市及び東京圏在住者を対象としたアンケート調査の概要

江別市外の住民（札幌市及び東京圏在住者）の移住に関する意識、江別市への関心などを把握するためにインターネット調査を実施しました。

図表 Ⅲ-4-1 調査概要

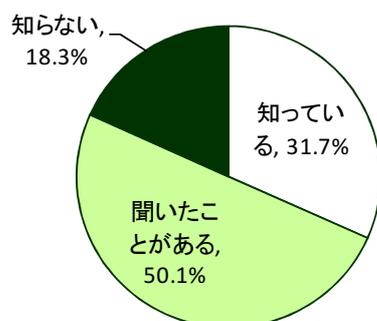
	札幌市在住者	東京圏在住者
対象者	インターネット調査会社への登録者のうち、札幌市に在住している50～79歳の移住希望のある約500人	インターネット調査会社への登録者のうち、東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）に在住している50～79歳の移住希望のある約500人
調査方法	インターネット調査	インターネット調査
調査期間	平成28年6月14日～6月17日	平成28年6月14日～6月16日
回収状況	515件	515件
回答者の属性	【性別】 男性 301人 (58.4%) 女性 214人 (41.6%) 【年齢】 50～54歳 203人 (39.4%) 55～59歳 158人 (30.7%) 60～64歳 81人 (15.7%) 65～69歳 49人 (9.5%) 70～74歳 21人 (4.1%) 75～79歳 3人 (0.6%)	【性別】 男性 333人 (64.7%) 女性 182人 (35.3%) 【年齢】 50～54歳 202人 (39.2%) 55～59歳 129人 (25.0%) 60～64歳 71人 (13.8%) 65～69歳 75人 (14.6%) 70～74歳 32人 (6.2%) 75～79歳 6人 (1.2%)

(2) 札幌市及び東京圏在住者の意識

① 江別市の認知度

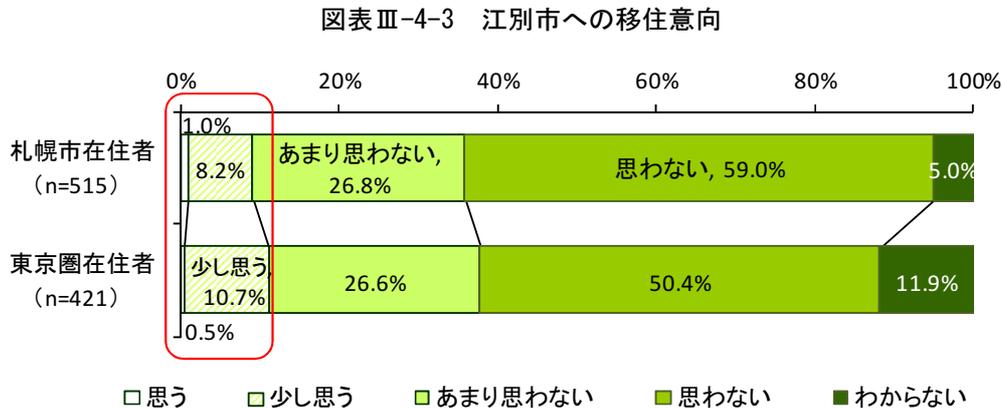
東京圏在住者に江別市の認知度を聞いたところ、「知っている」が31.7%、「聞いたことがある」が50.1%、「知らない」が18.3%でした。

図表Ⅲ-4-2 江別市の認知度【東京圏在住者 (n=515)】



②江別市への移住意向

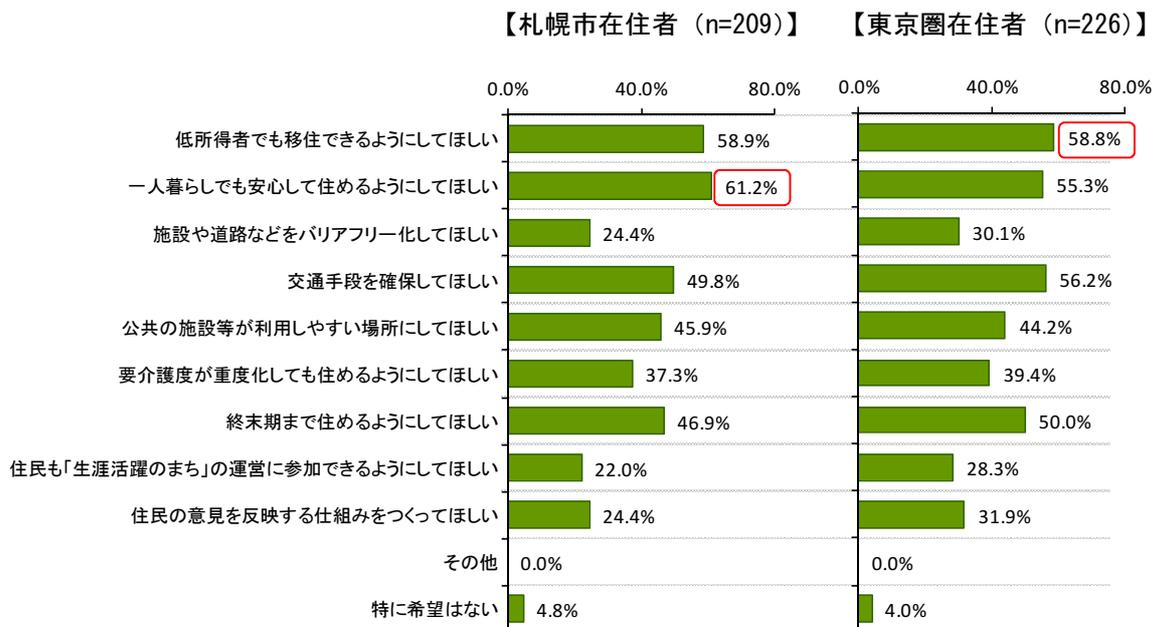
江別市に移住してみたいと思うかについて、札幌市在住者および、東京圏在住者のうち江別市を「知っている」「聞いたことがある」と回答した 421 人に聞いたところ、札幌市在住者では、「思う」「少し思う」を合わせると 9.2%（47 人）、東京圏在住者では「思う」「少し思う」を合わせると 11.2%（47 人）でした。



③「生涯活躍のまち」構想に求める条件

「生涯活躍のまち」への移住意向のある方（札幌市在住者 209 人、東京圏在住者 226 人）に、「生涯活躍のまち」構想にどのような条件を求めるかを聞いたところ、札幌市在住者では「一人暮らしでも安心して住めるようにしてほしい」の割合が 61.2%、東京圏在住者では、「低所得者でも移住できるようにしてほしい」が 58.8%と最も高くなっています。

図表Ⅲ-4-4 「生涯活躍のまち」構想に求める条件（複数回答）



IV 江別版「生涯活躍のまち」の基本的な考え方

1 江別市の現状から考える「生涯活躍のまち」のあり方

(1) 人口動態から考える「生涯活躍のまち」のあり方

江別市の人口は減少し、かつ高齢化率が高くなることが予想されています。江別市の人口動態をみると、隣接する札幌市にアクティブシニア層が転居している一方で、空知管内など近隣の市町村からの転入者が多くなっています。人口減少抑制のためには、札幌市に転出しているアクティブシニア層を市内にとどめる取り組みが重要であることが分かります（16～18 ページ。）

江別版「生涯活躍のまち」の検討に当たっては、アクティブシニアが江別市から転出しないまちづくりを行うこと、30 歳代・40 歳代の子育て世代の転入を更に促進することなどにより、持続可能なコミュニティの形成に取り組むことが重要です。

(2) 市民アンケート調査結果から考える「生涯活躍のまち」のあり方

①現在の居住地への満足度

アンケートの結果では、江別市民の約 8 割が「現在の居住地に満足している」、「江別市の現在の居住地に住み続けたい」と回答しています（20・21 ページ）。一方、江別市からの移住や転居を考えている市民は、公共交通機関の利便性や買い物など日常生活の利便性の高い地域への移住希望を持っています。

江別版「生涯活躍のまち」の検討に当たっては、江別市で暮らし続けたいと考える市民が、安心して生活を継続できるまちづくりを行うことが必要です。

②学習活動への参加意向

アンケートの結果では、「地方公共団体など公共機関や大学などが開催する公開講座や学習活動」について、参加状況は 3.6%ですが、今後参加したいと考えている市民は 16.3%と割合が高くなっています（26 ページ）。

江別市には 4 つの大学があり、それぞれが特徴を持った市民向け講座を開催しています。江別版「生涯活躍のまち」の検討に当たっては、大学と積極的に連携したアクティブシニアの活動の場づくりが求められます。

③江別版「生涯活躍のまち」への期待

アンケートの結果では、江別市内で「生涯活躍のまち」構想を実現した場合に、生涯活躍のまちに「移り住みたい」（5.1%）、「興味はある」（42.2%）と回答した市民が合わせて約 5 割となっています（27 ページ）。

江別版「生涯活躍のまち」の検討に当たっては、50 歳代以上の約半数の市民が江別市での取り組みに期待していることを念頭に、市民のニーズを十分に反映したまちづくりを行うこ

とが必要です。

④江別版「生涯活躍のまち」構想に求めるサービス

アンケートの結果では、江別版「生涯活躍のまち」構想に求めるサービスとして、「医療・介護サービスを充実してほしい」と回答した割合が73.3%と最も高くなっています。(28 ページ)。

江別版「生涯活躍のまち」の検討に当たっては、アクティブシニアが生涯にわたって継続した医療や介護が受けられる仕組みづくりを行うことが重要です。

(3) 札幌市及び東京圏在住者を対象としたアンケート調査結果から考える「生涯活躍のまち」のあり方

アンケートの結果では、移住意向のある札幌市在住者、東京圏在住者のそれぞれについて、江別市への移住意向がある方が約1割ずつ存在しています(30 ページ)。

江別版「生涯活躍のまち」は、市外からの転入希望についても受け入れることを念頭に置いて取り組みを検討することが必要です。

2 江別版「生涯活躍のまち」の基本的な考え方

江別版「生涯活躍のまち」の基本的な考え方として、現在の居住地の満足度が高いというアンケート調査結果がありますが、人口動態によると50代以降の札幌市への転出が多くなっていることから、まず第一に江別市民が市外に転出せず、住み慣れた江別市内で生活を全うできるよう「市内での住み替え・転居型」を目指します。

(1) 江別市民が生涯にわたって安心して生活できるまちづくりを目指す

江別市民の江別市内での住み替え・転居を念頭に、医療・介護サービスの充実や生活利便性の確保により、江別市内で生涯にわたって安心して生活できるまちづくりを目指します。市民にとって魅力あるまちは、市外の移住・転入希望者への魅力の発信にもつながります。

(2) 若年層など多様な主体との交流による「共生のまち」を実現し、まちの持続可能性を高める

良質な住宅への住み替え支援や、高齢者等による子育て支援などを通じて、若い世代がともに暮らすまちづくりを行います。多世代や多様な主体との交流を促すなど、ともに支え合う「共生のまち」の実現を目指し、まちの持続可能性を高めます。

(3) 大学をはじめとする地域の特色ある社会資源を十分に活用する

4つの大学や豊かな自然環境、農業から製造業まで多様な産業の存在、商店街でのソーシャルビジネスなど、江別市が有する特色ある社会資源を十分に活用し、アクティブシニアが

それぞれの希望を実現して、積極的に社会参加・就労に取り組める環境づくりを行います。

3 江別版「生涯活躍のまち」に期待される効果

(1) 江別市内からのアクティブシニアの転出の抑制

江別版「生涯活躍のまち」が実現することで、これまで、生活の利便性を求めて江別市から転出していたアクティブシニア層が、江別市内で転居することでも利便性の高い生活が維持できるという選択肢を得ることが可能となり、転出の抑制につながることが期待されます。

(2) アクティブシニアによる活発な社会参加・地域活動

江別版「生涯活躍のまち」の入居者のニーズに対応した社会活動の機会や場が増え、アクティブシニアの積極的な社会参加が促進されます。また、そうした活動を通じて地域の課題を把握したアクティブシニアなどにより、子育て支援やさまざまな分野において新たなソーシャルビジネスが展開されるなど、すべての市民にとって、より生活しやすいまちづくりにつながることが期待されます。

(3) 地域包括ケアシステムのさらなる充実

江別版「生涯活躍のまち」の構築に取り組むことは、アクティブシニアを含む高齢者が地域において生活を継続できるまちづくりを行うことにつながります。

このことは、高齢者が要介護になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムの実現を目指すことと、考え方を同じにしています。

江別版「生涯活躍のまち」を推進することで、江別市における地域包括ケアシステムの構築が一層推進されることが期待されます。

(4) 札幌市などからの若年層の転入増加

江別市は、札幌市へのアクセスが良く、都心部と比べて安価で広い住宅の供給があることなど背景に、30歳代・40歳代の子育て世代の転居が比較的多いまちです。

アクティブシニアによる子育て支援など、若い世代にとっても魅力ある活動が行われることで、さらに地域の魅力が高まって若年層の転入が増加することが期待されます。

(5) 江別市全体としての活性化

アクティブシニアの転出抑制、子育て世代の転入増加などにより、江別市の人口減少が緩和されることが予想されます。

人口減少が抑制されることで、地域産業が維持・活性化され、活力ある地域の継続につながります。江別版「生涯活躍のまち」の構築は、江別市全体の活性化に寄与することが期待されます。

4 江別版「生涯活躍のまち」のモデル地区

国の構想や、江別市の現状分析などを踏まえ、江別版「生涯活躍のまち」を目指していくに当たり、具体化するモデル地区の検討を行いました。

江別版「生涯活躍のまち」のモデル地区は、

「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」

を推進します。

⇒「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」は、既存資源を活用することにより、多様な主体との交流の可能性を有しています。まちづくりの計画も住民の議論も先行しています。従って、「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」として、商店街、大学、大麻団地等を活用した「まちなか型」、「タウン型」を推し進めることとします。

○検討の経過

(1) 3つの候補地

江別市では、「生涯活躍のまち」の実現に向けて、国が示す「生涯活躍のまち」構想や江別版「生涯活躍のまち」の基本的な考え方を踏まえ、①公有地を活用して一定程度の開発面積を確保できる場所で、②既存資源の活用を図ることができること、③「生涯活躍のまち」の実現可能性がある場所などを考慮し、3か所を検討しました。

なお、札幌盲学校跡地の一部活用にあたっては、道有地であることから北海道との協議が前提となります。また、当該地は江別市として高等養護学校の誘致を最優先に進めている地域であり、当該計画の活用はその余剰地を予定しています。

図表IV-4-1 江別版「生涯活躍のまち」の3候補地

名称	歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル	野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル	札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル
場所	江別市萩ヶ岡 	江別市西野幌 	江別市大麻元町 
概況	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年3月に閉校した江別小学校跡地 市有地（土地面積約3.5ha） 周辺の土地から少し小高い位置にある JR江別駅まで約400m 	<ul style="list-style-type: none"> 市有地（2ha）＋民有地 野幌総合運動公園が徒歩圏にある 河川を活用した水辺のせせらぎと癒し空間 JR野幌駅まで約3.8km 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年3月に移転した北海道札幌盲学校の跡地 道有地のため、活用にあたっては北海道との協議が必要 高等養護学校の誘致を進めている地域でその余剰地を活用 JR大麻駅まで約2.0km

(2) 3つの候補地の比較

3つの候補地すべてを同時期に整備することは困難であるため、整備に関する優先順位について江別版「生涯活躍のまち」の基本的な考え方を考慮した上で検討していく必要があります。

①土地の形状等

「歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル」は、丘陵地です。「野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル」は、河川との調整が必要となります。民有地は農業営農中です。「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」は、校舎等が現存しており、市街化区域（第一種中高層住居専用地域）と市街化調整区域があります。

図表IV-4-2 3候補地の土地の形状等

名称	歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル	野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル	札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル
概況	・丘陵地である	・河川との調整が必要である	・市街化区域（第一種中高層住居専用地域）と市街化調整区域がある

②公共交通機関に関する期待

移住したい理由で最も多かったのは「公共交通機関が便利なところに住みたいから」でした。「歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル」はJR江別駅まで徒歩5分以内と近く、バス路線も複数運行しています。「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」はJR大麻駅までは遠くなっていますが、バス路線が複数あるため公共交通機関の利用面で不便を感じることは少ないと考えます。「野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル」は、バス路線がありますが運行本数が少ないため、実際の利用面では不便を感じる人が多いと考えます。

図表IV-4-3 3候補地の公共交通機関の概況

名称	歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル	野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル	札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・JR江別駅まで徒歩5分程度（上り本数86本/日） ・バス停「萩ヶ岡」まで徒歩1分程度 ・運行本数は、新さっぽろ方面43本/日 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停「セラミックアートセンター前」までは徒歩6分程度 ・運行本数は、新さっぽろ方面8本/日、江別駅方面7本/日、北広島駅方面7本 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停「3番通12丁目」までは徒歩3分程度 ・運行本数は、江別駅方面34本/日、新さっぽろ方面34本/日

※バス運行本数は平日のもの（平成28年9月時点）。

③買い物など日常生活に関する期待

移住したい理由の2番目としては「買い物など日常生活が便利なところに住みたいから」

でした。「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」は、周辺地域に商業施設等が複数あり選択肢が多い地域であると言えます。また、大麻地区にある商店街も活発なイベントを実施しています。「歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル」の近くにも商業施設が立地していますが1か所となっています。「野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル」は大型商業施設からは少し離れているため徒歩での買い物は難しいと考えます。

図表Ⅳ-4-4 3候補地の買い物など日常生活の概況

名称	歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル	野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル	札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル
概況	・近隣に中規模のドラッグストア、食料品店がある	・近隣に商業施設はなく、自家用車等の利用が必要	・近隣に複数の中規模のスーパーマーケットがある

④医療・介護サービスに対する期待

「生涯活躍のまち」構想において期待されているのは、医療・介護サービスの充実という点です。医療に関して、「歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル」は江別市立病院から徒歩圏内にあるという立地の良さがありますが、「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」に関しても近くに診療所が多く、また公共交通機関が比較的充実しているので通院の負担は小さいと考えます。

介護サービス、特にデイサービスなど通所系のサービスは地域ごとの偏在もないので候補地ごとの差は小さいと考えます。

図表Ⅳ-4-5 3候補地の医療・介護サービスの概況

名称	歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル	野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル	札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル
概況	・徒歩圏内に江別市立病院があるなど充実	・野幌地域には病院はあるが、候補地からは徒歩圏ではない	・大麻地区に病院はないが診療所は多い ・病院についてもバスで乗り換えなしで行けるという環境にある

⑤文化・スポーツ活動に対する期待

社会活動や趣味活動に関して、「今後の参加意向」はさまざまなカテゴリーで高くなっています。特に「地方公共団体など公的機関や大学などが開催する公開講座や学習活動」については現在の参加状況が3.6%に対し、今後参加したいという意向を持っているのは16.3%となっており、興味関心が高いことが分かります。3つの候補地を比較すると「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」は地域内に酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学と3つの大学が立地しています。また、「野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル」は徒歩圏内に北海道情報大学が立地しています。公民館やスポーツ施設などに関しては、地域的な偏りがなく設置されています。

図表IV-4-6 3候補地の文化・スポーツ活動の概況

名称	歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル	野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル	札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル
概況	・中央公民館に近い	・北海道情報大学が徒歩圏内に立地 ・野幌総合運動公園総合体育館が徒歩圏内に立地	・地域内に酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学が立地している ・大麻公民館、大麻体育館などを利用可能

⑥まちづくりの動き

「生涯活躍のまち」を構築する際に、土地周辺の状況・環境が重要となります。江別小学校跡地に関しては、平成28年3月に江別駅周辺地区土地利用検討委員会より土地の利活用について報告書が提出されています。また、札幌盲学校跡地に関しては、江別市への道立高等養護学校誘致期成会が高等養護学校の誘致活動をしています。さらに、大麻地区では平成21年に江別市大麻団地住環境活性化調査研究会が大麻団地まちづくり指針を提言しています。また、江別市都市計画マスタープラン 2014[改訂版]との整合性を図る必要があります。

図表IV-4-7 3候補地のまちづくりの動き

名称	歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル	野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル	札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル
概況	・江別駅周辺土地利用検討委員会より土地の利活用について報告書が提出 ・さまざまな議論があり、賑わい(活性化)を求める	・市有地は河川と協議 ・民有地は営農中	・高等養護学校の誘致活動を市一丸で進めている ・大麻団地まちづくり指針の提言 ・指針を受け取り、「生涯活躍のまち」構想の可能性を示唆

⑦共生のまちの可能性

「歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル」は、児童センターが隣接しており子どもとの交流が可能です。「野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル」は、近隣に障がい者等を支援する「長井学園」があります。「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」は、高等養護学校の誘致活動により障がい者との共生の可能性を有しています。

図表IV-4-8 3候補地の共生のまちの可能性

名称	歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル	野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル	札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル
概況	・児童センターが隣接しており子どもとの交流が可能である	・近隣に障がい者等を支援する「長井学園」がある	・高等養護学校の誘致活動により障がい者との共生の可能性を有している

⑧地域活動の可能性

「歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル」は、既存住宅地が近く、近隣との交流が可能です。「野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル」は、地域活動の場となる住宅地や商店街とは距離感があります。「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」

は、既存商店街におけるソーシャルビジネスの可能性を有しています。

図表Ⅳ-4-9 3候補地の地域活動の可能性

名称	歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル	野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル	札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル
概況	・既存住宅地が近く、近隣との交流が可能である	・地域活動の場となる住宅地や商店街とは距離感がある	・既存商店街におけるソーシャルビジネスの可能性を有する

⑨アンケート結果による地域の特徴

江別地区は、現在の居住地の満足度が比較的低く、移住をしたい理由は公共交通機関が便利なところに住みたい、買い物など日常生活が便利なところに住みたい、自然豊かなところに住みたいなどで割合が高くなっています。現在の居住地に住み続けたい理由は、子どもや孫と一緒に（近くに）住んでいるためが高くなっています。

野幌地区は、現在の住宅の満足度が比較的高く、買い物など日常生活が便利と感じる割合が、高くなっています。

大麻地区は、現在の居住地の満足度が比較的高く、まちなみや景観、自然環境が豊かと感じる割合が、高くなっています。

図表Ⅳ-4-10 アンケート結果による地域の特徴

名称	江別地区	野幌地区	大麻地区
概況	・公共交通機関が便利なところ、買い物など日常生活が便利なところに住みたい割合が高い	・現在の住宅の満足度が高い ・買い物などの日常生活が便利である割合が高い	・現在の居住地の満足度が高い ・まちなみや景観、自然環境が豊かと感じる人の割合が高い



3つの候補地の可能性について
検討しました。

(3) 結論

江別版「生涯活躍のまち」構想の基本的な考え方を踏まえ、3つの候補地を比較し検討した結果、既存の生活利便性や、多世代交流、大学・商店街における社会参加の機会などが期待できることや高等養護学校の誘致活動により、高齢者と障がい者、若者などが交流する「共生のまち」への意識が高まっていること、平成21年に江別市大麻団地住環境活性化調査研究会が「大麻団地まちづくり指針」を提言するなど従来からまちづくりの議論を重ねた地域であり、構想の導入に向けた熟度が高まっていると言えることから、まずは「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」を優先的に実施すべきと判断しました。

将来的には「歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル」についても整備の可能性のある地域と判断します。

なお、「野幌森林公園の自然に触れる田園地域型モデル」については、公共交通機関や買い物などの日常生活の面で、整備に向けた課題が多い地域と判断します。

5 江別版「生涯活躍のまち」の具体的展開

(1) 江別版「生涯活躍のまち」のテーマ

江別版「生涯活躍のまち」は、大学や商店街をはじめとする大麻地区全体の資源をうまく活用しながら、市民が生涯にわたって活躍できる仕組みを整え、活力ある地域づくりを行うことを目指します。

江別版「生涯活躍のまち」のテーマ
まち全体の資源を活用して、さまざまな市民が活躍できるまち

(2) 江別版「生涯活躍のまち」の具体像

国による「生涯活躍のまち」の要件を踏まえ、「共通必須項目」を実施し、「選択項目」を下記のとおりとします。

①入居者

入居者の住み替え形態は、江別市内のアクティブシニアをターゲットとした「近隣転居型」を想定します。

②立地

立地は、札幌盲学校跡地の一部を中心とした「まちなか型」とします。

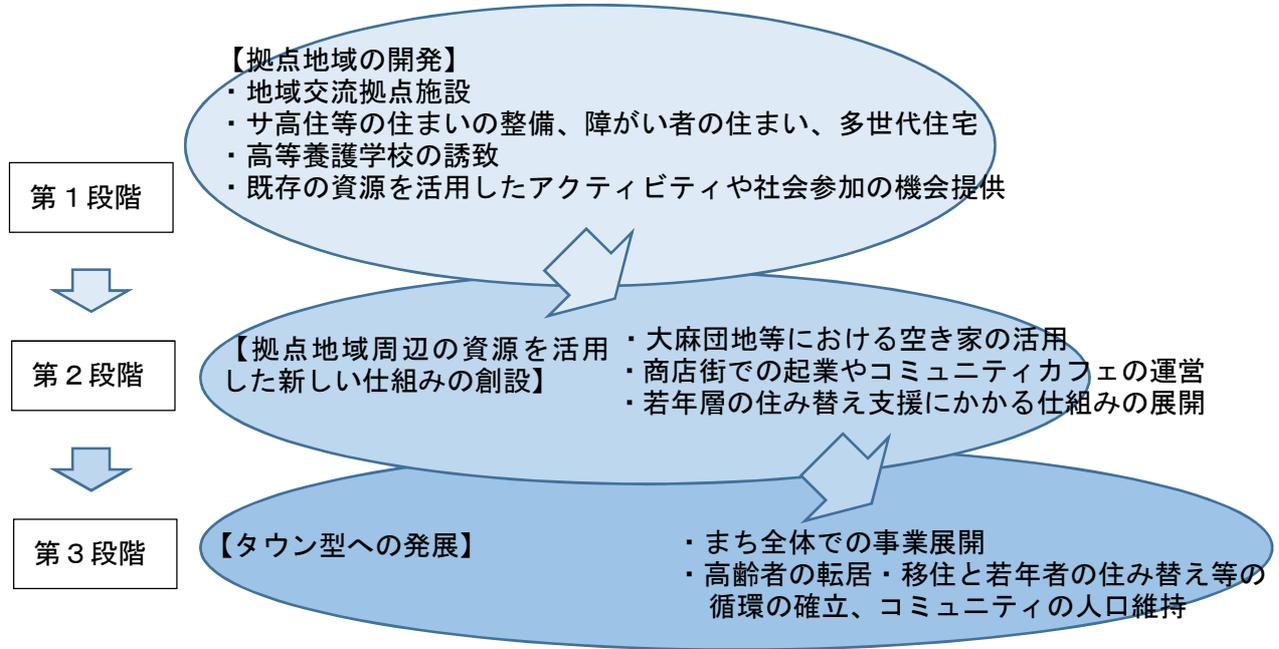
③地域的広がり

現在誘致活動を進めている札幌盲学校跡地への高等養護学校との相乗効果を図り、学校用地として利用しない敷地の一部を拠点地域とし、地域的広がりは大麻地区全体を想定とした、「タウン型」とします。

(3) 生涯活躍のまちの展開イメージ

まずは拠点地域となる札幌盲学校跡地における整備を優先し、段階的に機能や仕組みをまちに広げていきます。

図表IV-5-1 展開のイメージ



図表IV-5-2 札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル イメージ



6 江別版「生涯活躍のまち」の実現に向けて

(1) 江別版「生涯活躍のまち」の規模

江別市では、拠点地域（札幌盲学校跡地）の開発からスタートし、アクティブシニアによる活動を地域に段階的に広げることで「タウン型」への発展を目指す「江別版生涯活躍のまちモデル」を推進します。

江別版「生涯活躍のまち」構築に向けて、拠点地域の規模（広さ、想定する入居者数、住宅戸数など）を整理します。

なお、拠点地域は道有地であることから、本構想を推進するに当たっては、北海道との協議を前提として進めていくこととします。

①拠点地域の広さ

拠点地域とする札幌盲学校跡地は、面積が約 5.9ha の道有地であり、平成 27 年 3 月に札幌盲学校が札幌市中央区へ移転し、現在は、高等養護学校の誘致活動を行っています。

このため、高等養護学校の余剰地を江別版「生涯活躍のまち」構想の拠点地域とすることを想定します。

②想定する入居者数

江別版「生涯活躍のまち」が構築されることにより、江別から転出する 50～79 歳の人数が抑制されるものと想定します。

●江別市の 50～79 歳の市民の数：49,634 人（平成 28 年 8 月末現在 住民基本台帳）

●江別市内の「他の地域に移りたい」と考える 50～79 歳までの江別市民：5.1%（市民アンケート結果より）

→ $49,634 \times 5.1\% = 2,531.3$ 人



●生涯活躍のまちに「移り住みたい」と考える 50～79 歳までの江別市民：7.1%（市民アンケート結果より）

→ $2,531.3 \text{ 人} \times 7.1\% = 180.7$ 人

上記の仮定から、江別版「生涯活躍のまち」が構築された場合、実際に移り住む可能性のある市民は、およそ 180 人程度であるものと試算されます。

③住まいの規模

アクティブシニア向けには、②の入居者の想定から、およそ 150～200 戸程度を目安に住居整備を検討します。住宅の種類は、サービス付き高齢者向け住宅および有料老人ホームを想定します。

ただし、60 歳未満のアクティブシニアは上記住宅の入居要件を満たさないため、共生型の住まいなど、別途、住まいを整備することが求められます。

(2) 拠点地域（札幌盲学校跡地）における施設・機能等の配置

①地域交流拠点施設

地域住民や入居者同士のさまざまな交流を生み出す仕組みを盛り込んだ、地域交流拠点施設を新たに検討します。

地域交流拠点施設において検討すべき機能等は、以下のとおりです。

図表IV-6-1 地域交流拠点施設

分類	盛り込むことを検討する機能など
基本となる機能	<ul style="list-style-type: none"> ・「生涯活躍のまち」のサービス全般の管理・調整・プログラム開発（コーディネーター等専門人材の配置） ・入居者の社会参加の仕組み（ボランティア活動、スポーツ活動・各種サークル活動、入居者による自治活動など） ・移住希望者への支援（情報提供、事前相談、意見聴取、マッチングなどの支援） <p style="text-align: right;">など</p>
拠点地域の外から人を呼び込む仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・レストラン、カフェ（喫茶店）、居酒屋 ・物販、農産物直売、手作り品販売 ・ギャラリースペース ・温浴施設 <p style="text-align: right;">など</p>
多世代との交流、共生・協働の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援に関わる拠点 ・高齢者福祉施設（高齢者デイサービス） ・障がい者支援（レストランなどでの障がい者就労） ・各種イベント、お祭り <p style="text-align: right;">など</p>

②住まい

サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなど、アクティブシニアが自立して生活できる住まいを新規に整備することを検討します。また、60 歳未満でサービス付き高齢者向け住宅への入居要件を満たさないアクティブシニア向けには、子育て世帯や学生などとの多世代住宅を整備することで対応します。

また、入居を検討している市民等のための「おためし入居」住宅や、二地域居住・シーズンステイなど、さまざまな暮らし方のニーズに対応した住まいを置くことを検討します。

さらに、高等養護学校の卒業生が地域での生活継続を望んだ場合に対応できるよう、障がい者グループホームなど障がい者向けの住まい整備を検討します。

図表IV-6-2 住まい検討の視点（拠点地域）

住宅の種類	検討の視点
サービス付高齢者向け住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・安否確認・生活相談サービスの実施 ・平屋など小規模な形態か、高層・多居室な形態か ・国交省による補助事業の活用 ・地域交流拠点機能の付加 <p style="text-align: right;">など</p>
有料老人ホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・介護付き、住宅型 ・特定施設とする場合の介護保険事業計画との整合 ・地域交流拠点機能の付加 <p style="text-align: right;">など</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代住宅（子育て世帯、学生、60歳未満のアクティブシニアなど） ・障がい者グループホーム等、障がい者向けの住まい ・「おためし入居」住宅や、二地域居住・シーズンステイ整備 <p style="text-align: right;">など</p>

③医療・介護サービス

医療・介護サービス、生活支援サービスについては、市内の既存のサービスを活用することを基本としますが、拠点地域には、小規模な診療所・薬局などの配置を検討します。

また、高齢者向けデイサービスや訪問介護サービスなど、基本となる在宅介護サービスについては、拠点地域内で提供できるようにします。高齢者向けデイサービスは、地域交流拠点施設の中に設置して、「生涯活躍のまち」の入居者と地域住民との交流につなげる仕組みを検討します。

図表IV-6-3 医療・介護サービスなど（拠点地域）

分類	サービスの種類例
拠点地域への設置を検討	<ul style="list-style-type: none"> ・診療所（内科など）、往診・在宅医療への対応 ・薬局（調剤薬局、健康相談） ・高齢者デイサービス、訪問介護サービスなど基本となる在宅介護サービス ・介護系施設の検討 <p style="text-align: right;">など</p>

④アクティビティや仕事など社会参加のための仕組みやプログラム

拠点地域では、地域交流拠点施設においてアクティビティ等のプログラム提供を検討します。また、新たに交流農園の整備を検討するなどにより、活動の幅を広げます。

さらに、拠点地域内外の地域活動・社会参加に関わる情報窓口を設置して、アクティブシニアの社会参加を促します。

⑤多様な交流を促す仕組み

誘致している高等養護学校との交流や、子育て世代とアクティブシニアの交流、拠点地域で暮らす学生がボランティアとして関わる仕組み（高等養護学校や高齢者向け施設、地域交流拠点でのイベントなど）など、多様な交流を促す仕組みの構築を検討します。

図表IV-6-4 多様な交流

分類	交流のための仕掛け・ソフト
高等養護学校生徒との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の共同開催（夏祭りやイベント） ・高等養護学校におけるアクティブシニアのボランティア（学校行事への協力や放課後活動の支援など） ・高等養護学校や高齢者デイサービス等での大学生のボランティアなど
拠点地域周辺住民との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティカフェ（喫茶店）や温浴施設など、日常的に周辺住民が出入りする仕組み ・周辺住民による各種講座等の開催 ・子育てサロンなどの開催とアクティブシニア（入居者）による子育て支援（放課後活動の支援、保育園や学校等への送迎支援など） ・障がい者の就労の場の整備（地域交流拠点のレストランでの就労、新たな就業先の誘致など） <p style="text-align: right;">など</p>
大学生との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭りなど各種イベント・行事の企画・実施 ・大学による出張講座、学生による研究発表会の開催 <p style="text-align: right;">など</p>

⑥コーディネーターの配置

「生涯活躍のまち」のサービス全般の管理・調整・プログラム開発など、入居者の暮らし全般をコーディネートする人材配置を検討します。

図表IV-6-5 コーディネーターの配置

分類	検討の視点
人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーター（高齢分野） ・その他福祉分野のソーシャルワーカー ・まちづくりに関わる NPO 法人の人材 <p style="text-align: right;">など</p>
教育・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・国が実施する研修への派遣 ・市として独自の研修実施検討 <p style="text-align: right;">など</p>

(3) 拠点地域周辺における施設・機能等の配置

①住まい

拠点地域周辺では、大麻団地などにある既存の住まい・空き家を活用して住宅を確保するほか、子育て世帯向け住宅や学生向け住宅など、若年層を対象とした住まい等の整備を検討します。

図表IV-6-6 住まい検討の視点（拠点地域周辺）

住宅の種類	検討の視点
集合住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の集合住宅の空き家等の活用 ・バリアフリー等リフォームの実施 ・一棟全て活用、一部の居室を活用 ・市や事業者による購入または借上げ ・公営住宅の活用 <p style="text-align: right;">など</p>
一戸建住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の空き家の活用 ・バリアフリー等リフォームの実施 ・市や事業者による購入または借上げ ・新規にバリアフリーの一戸建てを建設 <p style="text-align: right;">など</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯向け住宅 ・学生向け住宅 <p style="text-align: right;">など</p>

②住み替え支援サービス

市内の不動産事業者と行政が連携して、アクティブシニアの転居によって生じる空き家の売却や賃貸などについて相談・支援する仕組みを検討します。

また、シニア層が転居した後の住宅に若年層が積極的に入居できるよう、若年層にとって魅力ある住まいや住環境の整備を検討します。

図表IV-6-7 検討する住み替え支援サービスや仕組み

検討する仕組みやサービスなど
<ul style="list-style-type: none"> ・住み替えの相談窓口 ・リバースモーゲージ、マイホーム借り上げ制度などによる住み替え支援 ・若年層に魅力ある住まいへのリフォーム支援 <p style="text-align: right;">など</p>

③医療・介護サービス、生活支援サービス

江別版「生涯活躍のまち」における継続的なケアの提供にあたっては、拠点地域周辺にある既存の医療・介護サービスを活用します。

また、NPO 法人やボランティア団体等が提供する生活支援サービスについては、入居者のニーズに対応するサービスを洗い出し、活用します。

図表IV-6-8 医療・介護サービスなど（拠点地域周辺）

分類	サービスの種類例
活用可能な既存の医療サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 江別市立病院（バス等による通院） ・ 北町クリニック（拠点地域に隣接） ・ その他診療所（内科、外科、整形外科、脳神経外科、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、神経科、神経内科、歯科、小児科、産婦人科） <p style="text-align: right;">など</p>
活用可能な既存の介護サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居宅系サービス（居宅介護支援、通所介護、通所リハビリテーション、訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、定期巡回・随時対応サービス、認知症対応デイサービス、小規模多機能型居宅介護、ショートステイ） ・ 施設系サービス（老人保健施設、特別養護老人ホーム、介護療養型医療施設） <p style="text-align: right;">など</p>
生活支援サービスの洗い出しと活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO 法人等による生活支援サービス ・ 介護保険サービス事業者等による介護保険外サービスの提供 ・ 配食サービス、便利屋サービス、外出支援・移動支援サービス、家事代行（掃除、洗濯など） ・ 買い物支援、宅配サービス <p style="text-align: right;">など</p>

④アクティビティや仕事など社会参加のための仕組みやプログラム

市内にある地域資源を活用して、シニア層の健康でアクティブな生活を支援するためのプログラムの提供を検討します。

特に、江別市内にある4つの大学では、それぞれが特色ある公開講座を開講しており、「生涯活躍のまち」で暮らすアクティブシニアのニーズを把握して、より魅力ある講座新設等について、大学と協議しながら検討していきます。

また、商店街の空き店舗を活用したコミュニティカフェ運営や、能力の高いアクティブシニアの大学講師としての雇用など、それぞれの希望やスキルを活かした雇用の場づくりについて、関係者を交えた検討の場を設けます。

図表IV-6-9 アクティビティや仕事など社会参加のための仕組みやプログラム

分類	検討すべき仕組みやプログラム等
主に既存の仕組みやプログラム等を活用	
健康づくり・介護 予防	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ活動（各種スポーツ教室、学校開放事業、軽スポーツ出前事業） ・市民サークル活動（ヨガ、体操、ダンスなど） ・健康診断、特定健診 ・大学と連携した健康づくり事業 ・介護予防生活支援サービス事業、一般介護予防事業 ・高齢者福祉サービス <p style="text-align: right;">など</p>
教養・文化 レジャー	<ul style="list-style-type: none"> ・江別市内の4大学による市民向け講座（えべつ市民カレッジ連携講座） ・江別市民文化ホール（えぼあホール）での各種活動 ・民間の文化センター等による各種講座 ・サークル活動（手芸や陶芸、料理、囲碁・将棋、パソコンなど） ・読書・自主研究（情報図書館、道立図書館） ・映画鑑賞、スポーツ観戦 ・旅行 <p style="text-align: right;">など</p>
地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動 ・NPO など社会貢献団体等での活動 ・各種ボランティア活動（子育て支援、障がい者や高齢者の支援、地域安全・防犯活動、環境保全活動など） ・地域のお祭りなどイベント運営 <p style="text-align: right;">など</p>
新たな仕組みやプログラムを検討	
健康づくり・介護 予防	<ul style="list-style-type: none"> ・野幌運動公園、体育館などを活用した新たなプログラムの検討 ・アクティブシニアのニーズに応じた新たな活動の場やプログラムの提供 <p style="text-align: right;">など</p>
教養・文化 レジャー	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や市民会館などを活用した新たなプログラムの検討 ・大学における履修証明制度導入の検討 <p style="text-align: right;">など</p>
就労の機会	<ul style="list-style-type: none"> ・大麻銀座商店街、大麻東町ニュープラザ商店街の空き店舗活用（コミュニティカフェの運営など）の検討 ・大学での講師としての雇用の可能性検討 ・江別市内の各種産業（農業、製造業など）における雇用の場の検討 ・高齢者施設・サービス事業所、障がい者施設・サービス事業所等での就労の検討 ・起業支援セミナー等の開催、起業にかかる助成制度の検討 ・アクティブシニアの人材バンク（能力の高いシニアの活躍）の検討 <p style="text-align: right;">など</p>

⑤多様な交流を促す仕組み

拠点地域で暮らす入居者等が、拠点地域周辺と行き来しながら多様な交流が行われる仕組みの構築を検討します。

また、アクティブシニアの社会参加の機会として、就労の場づくりについて検討します。

図表IV-6-10 多様な交流を促す仕組み

分類	交流のための仕組み
地域住民等との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や近隣の小中学校などとの交流 ・商店街との交流（イベントの企画・運営への参画など） ・拠点地域周辺住民のニーズに対応したボランティア活動の実施（子育て支援や高齢者・障がい者支援）
市内の中小企業等による人材活用	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブシニアの職歴・技術などを登録した「人材バンク」の開設 ・人材を必要とする江別市内の中小企業等への紹介・就労の実現など
商店街における店舗運営	<ul style="list-style-type: none"> ・大麻銀座商店街、大麻東町ニュープラザ商店街の空き店舗を活用した店舗運営 ・行政による起業支援策の検討（起業相談、開業資金支援など） ・コミュニティカフェなどの運営によるアクティブシニアのまちづくりへの寄与 <p style="text-align: right;">など</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブシニアの職歴・技術などを活かした大学での講義（講師として活躍） ・拠点地域周辺住民のニーズに対応したソーシャルビジネスの展開可能性の検討 ・シルバー人材センターとの連携 <p style="text-align: right;">など</p>

⑥交通アクセス

拠点地域から JR 大麻駅や病院、大学、商店街などへの交通アクセスの確保を検討します。

既存のバス路線等の交通網を活用しつつ、入居者にとってより利便性の高い交通システムの確保を検討します。

図表IV-6-11 交通アクセス

検討する仕組みなど
<ul style="list-style-type: none"> ・市町村運営有償運送 ・福祉有償運送 ・民間事業者によるライドシェア、デマンド交通 <p style="text-align: right;">など</p>

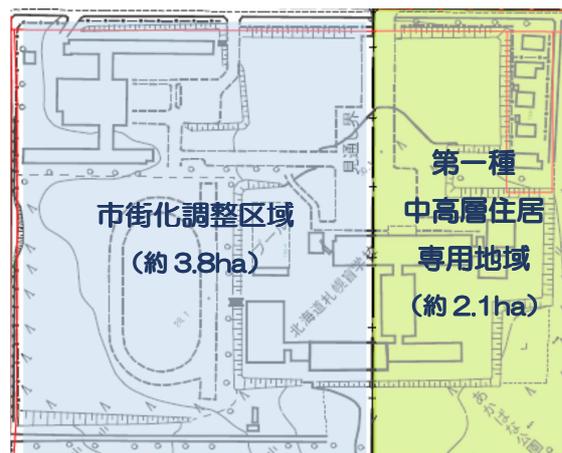
(4) 事業化に向けたプロセス

①土地の利用方針の決定

【土地利用規制の現況】

拠点地域（札幌盲学校跡地）のうち、約 2.1ha は市街化区域^{※1}（第一種中高層住居専用地域^{※2}）、約 3.8ha は市街化調整区域^{※3}となっており、都市計画法や建築基準法などの各法令による土地利用規制があることから、拠点地域における土地利用方針を明らかにしたうえで、北海道との協議が必要です。

図表IV-6-12 拠点地域 都市計画図



※1 市街化区域：都市計画法に基づき指定される既に市街化を形成している区域とおおむね 10 年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域。

※2 第一種中高層住居専用地域：都市計画法に基づき指定される中高層住宅の良好な環境を守るための地域。病院、大学、500 ㎡までの一定の店舗などが建てられる。

※3 市街化調整区域：都市計画法に基づき指定される基本的に市街化を抑制すべき地域。土地利用に当たっては、開発行為等の許可を要する。

【インフラ整備】

拠点地域には水道管が敷設されていますが、新たな施設の配置に対応した工事が必要となります。

拠点地域における施設整備方針を決定した上で、必要な工事について工期・費用等を見積る必要があります。また、事業の収支見通し等を勘案しながら、費用負担の考え方（江別市が負担する・事業主体となる法人等が負担する、など）についても整理します。

②事業主体の選定

「生涯活躍のまち」の理念を理解し、市と協働で事業展開を行う事業主体を選定します。

【事業主体に求められる資質】

「生涯活躍のまち」は、単に高齢者の住まいを整備することが目的ではなく、アクティブシニアの住み替えや移住の受け皿となる住まいを整備し、就労や社会活動参加の支援、多世代交流の推進により、アクティブシニアを中心とした住民が生涯現役で活躍できるコミュニティを構築・形成することが必要です。

したがって、「生涯活躍のまち」の事業主体には、医療・介護分野や住まいに関する理解に加え、子育て支援や地域づくりなど、幅広い分野への知識・理解を有することが求められています。

図表IV-6-13 事業主体に求められる資質

事業主体に求められる資質	
<ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護分野への理解 ・子育て分野、障がい福祉分野、健康づくり分野への理解 ・地域交流、まちづくりへの理解 ・土地造成、インフラ整備にかかる実績や知識 	など

【考えられる事業主体】

国内の先進事例では、社会福祉法人、まちづくりに関わる株式会社、住宅開発をメインとするディベロッパーなどによる事例が見られます。江別市においては、江別市が目指す「生涯活躍のまち」の運営にふさわしい事業主体を募集・選定することが必要です。

また、一つの法人で複数の分野への対応が難しいと考えられる場合には、いくつかの事業主体によるコンソーシアムにより事業実施を行うことも検討します。

図表IV-6-14 考えられる事業主体

検討の視点	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人、医療法人、NPO 法人 ・株式会社、ディベロッパー ・コンソーシアムでの事業運営 ・江別市内の業者に限定するか、江別市外・道外の事業者も対象とするか 	

③拠点地域における住まいの整備

拠点地域においては、アクティブシニアが「ここで暮らしたい」と考えるような、江別版「生涯活躍のまち」の象徴となる魅力的な住まいを整備することが必要です。

住宅の規模、種類、形態などについて、それぞれの特徴を整理し、江別版「生涯活躍のまち」にふさわしい住宅のあり方を検討します。

図表IV-6-15 拠点地域における住まいの整備

分類	検討の視点
住宅の規模の想定	<ul style="list-style-type: none">・江別市から札幌市へ転居するアクティブシニア層に働きかけをする・アンケート調査により「生涯活躍のまちに転居したい」と考えている層の入居を想定する
住宅の形態	<ul style="list-style-type: none">・アクティブシニアにとって魅力ある住まいに（デザインも重要）・家賃、広さ、付属するサービス・平屋建て、高層の集合住宅
建設・運営にかかる費用の検討	<ul style="list-style-type: none">・土地の整備、土地取得・設計・建設にかかる費用、活用できる補助金等の有無・運営にかかる費用（水道光熱費、固定資産税など）・事業主体の種類による優遇措置の有無等の整理

④「生涯活躍のまち」における多世代交流・社会参加の仕組みの検討

【拠点地域】

拠点地域には、地域交流拠点施設を設置して、当該施設を中心とした多世代交流・社会参加の取り組みを行います。

取り組み内容の検討にあたっては、入居者や拠点地域周辺住民、関係する団体等のニーズや考え方の把握と、それぞれが江別版「生涯活躍のまち」のまちづくりに主体的に関わる土台づくりを目標として、ワークショップなどの手法を用いた関係者による検討の場を設けます。

【拠点地域周辺】

江別版「生涯活躍のまち」では、アクティブシニアの能力を活かした就労の場について、市内の企業や商店街との協議の場を設けるなどにより、積極的に検討します。

⑤コーディネーターを支える仕組みづくり

コーディネーターは、事業主体となる法人が置くことを基本とし江別版「生涯活躍のまち」におけるアクティブシニアのさまざまな活動をコーディネートします。

拠点地域と拠点地域周辺の資源をうまくつなぐことで、タウン型の発展を目指す江別版「生涯活躍のまち」では、コーディネーターが重要な役割を果たすと考えます。アクティブシニアの活動に関わる地域の関係者による「コーディネーター支援チーム」を立ち上げ、地域資源の活用とコーディネートを推進します。

図表IV-6-16 コーディネーターを支える仕組みづくり

コーディネーター支援チームの構成員（案）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会 ・ 商店街、商工会議所 ・ 市内の大学 ・ 江別市（高齢、障がい、子ども・子育て、市民活動、商工労働、など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大麻団地まちづくり推進会議 ・ 高等養護学校（拠点地域に誘致活動中） ・ 江別市社会福祉協議会（ボランティア） <p style="text-align: right;">など</p>

7 想定スケジュール

(1) 想定スケジュール

実施に向けた主なスケジュールは、事業主体の選定から入居開始まで3年間程度を想定します。

なお拠点地域は道有地であることから、本構想を推進するに当たっては、北海道との協議を前提として進めていくこととします。

図表IV-7-1 想定スケジュール

	協議・検討	1年目	2年目	3年目
事業主体の選定				
募集にかかる要件の整理		▶		
公募・決定		▶		
事業計画策定		▶	▶ 実施に向けた準備	
拠点地域の土地の整備				
庁内部署との調整（用途地域など）		▶		
施工業者の選定		▶		
工事の計画・実施		▶		
拠点地域の開発				
規模・機能等の確定・計画策定		▶		
施工業者の選定			▶	
住まい・地域交流拠点などの整備			▶	
社会参加・アクティビティ・就労の準備				
大学・地域企業・商店街・地域住民等との協議・準備		▶ ワークショップ等の開催	▶ アクティビティ等の計画・施行	▶ 実施
入居者の募集				
情報周知・入居者募集			▶ 情報周知・入居者の募集	▶ 入居開始

8 構想の策定体制

(1) 江別市生涯活躍のまち構想有識者会議

構想の策定にあたっては、有識者等による江別市生涯活躍のまち構想有識者会議を設け、構想策定に係る専門的な協議を行いました。

図表IV-8-1 有識者会議 委員一覧（敬称略、委員は五十音順）

委員	氏名	所属
座長	澤井 秀	北海道情報大学副学長
座長代理	中川 雅志	江別市社会福祉協議会事務局長
委員	井上 智	北海道銀行野幌支店支店長
	今田 英徳	長井学園施設長
	小原 克嘉	江別市自治会連絡協議会副会長
	河西 邦人	札幌学院大学経営学部教授
	鴻野 徹	江別商工会議所部長
	斎木 雅信	江別市シルバー人材センター事務局長
	西懸 昭子	江別市生涯学習推進協議会理事
	吉川 邦俊	北洋銀行江別中央支店支店長

(2) 庁内推進委員会、まち・ひと・しごと創生推進本部会議

庁内における横断的な検討組織として「庁内推進委員会」を設け、構想の推進に向けた協議を行いました。また、江別市における地方創生にかかる事業全体について協議を行う「まち・ひと・しごと創生推進本部会議」においても当該構想にかかる進捗等を報告し、必要な調整を行いました。

図表IV-8-2 まち・ひと・しごと創生推進本部会議 委員一覧（敬称略、委員は名簿順）

委員	氏名	所属
座長	澤井 秀	北海道情報大学副学長
座長代理	中川 雅志	江別市社会福祉協議会事務局長
委員	粕谷 堅一郎	江別市自治会連絡協議会副会長
	高木 玲子	江別市男女共同参画推進連絡協議会理事
	龍田 昌樹	江別商工会議所副会頭
	中橋 伸郎	道央農業協同組合江別営農センター長
	小松 芳幸	北海道江別高等学校校長
	成田 将之	札幌東公共職業安定所江別出張所統括職業指導官
	吉川 邦俊	北洋銀行江別中央支店長
	井上 智	北海道銀行野幌支店長
	本間 雅彦	連合北海道江別地区連合会長代行
佐藤 英明	北海道新聞社広告局営業第一部長	

オブザーバー

	田辺 きよみ	北海道石狩振興局地域創生部長
	中野 亮二	江別商工会議所 中小企業相談所長

(3) 住民向け説明会の開催

江別市が考える「生涯活躍のまち」の姿について、広く市民に周知し理解を深めてもらうことを目的として、市民向けのシンポジウム「江別版『生涯活躍のまち』構想シンポジウム」を開催しました。

図表IV-8-3 江別版「生涯活躍のまち」構想シンポジウム 開催概要

日時	平成 28 年 11 月 12 日（土） 14：30～16：00
会場	江別市民会館 3 階 37 号会議室
プログラム	1 市長挨拶（江別市長 三好 昇） 2 講演「生涯活躍のまちについて」 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 主査 横田 正明 氏 3 パネルディスカッション「江別市における生涯活躍のまち」 ●コーディネーター 前内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 参事官 五十嵐 智嘉子 氏 ●パネリスト 横 田 正 明 氏（内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 主査） 澤 井 秀 氏（北海道情報大学 副学長） 小 原 克 嘉 氏（江別市自治会連絡協議会 副会長） 橋 本 正 彦 氏（COMMUNITY HUB 江別港 代表） 三 好 昇 氏（江別市長）

(4) パブリックコメントの実施

江別版「生涯活躍のまち」構想（案）について、広く市民の意見をうかがうことを目的として、パブリックコメントを実施しました。

実施期間：平成 28 年 12 月●日（ ）～12 月●日（ ）

実施方法：

図表IV-8-4 江別版「生涯活躍のまち」構想 検討の経過

日 程		委員会等	議題
平成 28年	7月5日(火)	第1回 江別市生涯活躍のまち構 想有識者会議	・江別版「生涯活躍のまち」構想の検 討について ・先進事例について
	8月22日(月)	平成28年度 第1回 庁内推進委員会	
	8月24日(水)	第1回 まち・ひと・しごと創生 推進本部会議	
	8月30日(火)	第2回 江別市生涯活躍のまち構 想有識者会議	・基礎データ、現状分析の報告につい て ・アンケート結果の報告について ・先進地調査の報告について ・江別版「生涯活躍のまち」モデル案 の検討
	10月12日(水)	第3回 庁内推進委員会	・江別版「生涯活躍のまち」構想(素 案)について
	10月19日(水)	第3回 江別市生涯活躍のまち構 想有識者会議	・江別版「生涯活躍のまち」構想(素 案)について
	10月〇日(〇)	第2回 まち・ひと・しごと創生 推進本部会議	
	11月12日(土)	江別版「生涯活躍のまち」 構想シンポジウム	・「生涯活躍のまち」について ・江別市における「生涯活躍のまち」 のあり方について
	11月〇日(〇)	第4回 庁内推進委員会	
	11月〇日(〇)	第3回 まち・ひと・しごと創生 推進本部会議	
	11月〇日(〇)	第4回 江別市生涯活躍のまち構 想有識者会議	
	12月〇日～〇日	パブリックコメントの実 施	・江別版「生涯活躍のまち」構想(案) についてのパブリックコメント
平成 29年	1月〇日(〇)	第5回 庁内推進委員会	
	1月〇日(〇)	第4回 まち・ひと・しごと創生 推進本部会議	
	1月〇日(〇)	第5回 江別市生涯活躍のまち構 想有識者会議	